

神戸大学発達科学部10年の歩み
ー卒業生および就職先アンケートよりー

平成16年7月

神戸大学発達科学部卒業生動向調査委員会

はじめに

今、発達科学部は、来年4月からの新学科およびヒューマン・コミュニティー創成研究センターの発足へ向けて、改組の作業の真っ只中にある。その背景に、本年4月からの国立大学法人への移行があることは言うまでもない。多分に個人的な思いを書かせていただくなれば、「改革続きで疲れた」というのが正直なところである。教育学部から発達科学部への改組、大学院の教育学研究科から総合人間科学研究科への改組、さらに後期課程の発足、そして今回の学科改組というように、この10数年間本学部は常に改革の中にあった。その過程は、私どもの大学教員としての歩みとまさに重なる。大学設置審議会の審査にかかった回数だけをとってみれば、戦後の新制大学発足時の改革をも上回る規模の改革であったと言ってよいのではないかと。疲れない方がおかしい。

疲れを倍加させる事情として、何のために改革を行うのかが不分明であるということがある。改革の理由として、社会的、学内的に発達科学部像を鮮明にする必要性が言われるが、その理由は必ずしも学部構成員すべてに共有されているわけではない。要するに改革の理由が外在的なのである。改革というものはすべからずそういうものであるのかもしれないが、少なくとも教育学部から発達科学部への移行時には約10年に及ぶ調査・研究の蓄積があった（神戸大学教育学部五十年史編集委員会編『神戸大学教育学部五十年史』神戸大学紫陽会、2000年参照）。残念ながら今回の改組にあたっては、客観的なデータの蓄積が少なすぎた。改革の第一義は、学生や大学院生に行き届いた教育・研究環境を保障することにあると考えるが、当該の学生・大学院生の声すらデータの蓄積がないのが実情である。そこで私どもは、発達科学部が措置した研究推進特別経費（重点支援）を有効活用すべく、発達科学部の卒業生を対象とする悉皆調査を企図した。この調査結果をどのように読むのかは読者にお任せするしかないが、私どもとしては、発達科学部10年の歩みに対する第一級の外部評価が得られたと考えている。この資料が、今後、本学部の活動に対する多様な客観的データが継続的に蓄積される契機になれば、私どもの喜びはこれに優るものはない。

最後に、特別に記しておかなければならぬこととして、添田久美子（兵庫短期大学助教授）、近藤康夫（元神戸大学教育学部史編集室員）両氏の尽力がある。両氏がこの報告書の作成に際し割いた時間と労力は半端なものではなかった。両氏とも教育学部の卒業生であり、添田氏は総合人間科学研究科後期課程の修了生である。その点で本報告書は、同窓生の熱意の賜物である。

上記した改革の中で私どもは極めて多忙な生活を強いられた。そういう状況下で、本報告書がまがりなりにもまとめられたのは、ひとえに両氏のお力添えのおかげである。ここに記して感謝の意を表したい。

なお、予期せぬ事情から本報告書の発行が予定よりかなり遅延してしまった。読者の皆様と交友印刷のスタッフの方々には、この場を借りてお詫び申し上げる次第である。

神戸大学発達科学部卒業生動向調査委員会
発達科学部 教授 船 寄 俊 雄
" 助教授 太 田 和 宏
" 教授 岡 田 修 一

目 次

はじめに	
I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査対象	1
3 調査方法	1
4 回収率	2
II 卒業生アンケート	3
1 単純集計分析	3
Q 1 本学部に対する進学希望度	3
Q 2 入学時の期待	4
Q 3 本学部に対する満足度	5
Q 4 授業に対する評価	6
Q 5 学生生活に対する評価	8
Q 6 現職と在学中の専攻との関係	9
Q 7 就職・進学に際し相手方が重視したと思う事柄	9
Q 8 現職で役立っている事柄	11
Q 9 教職免許の取得について	12
Q 10 本学部の優れている点	14
Q 11 本学部に関今後期待すること	15
Q 12 総合人間科学研究科への入学希望	16
Q 13 転職経験	16
Q 14 現職	16
2 テーマ別分析（クロス集計）	20
(1) 本学部への進学希望度と本学部に対する満足度との関係	20
(2) 学科と授業評価との関係	20
(3) 現職との関係	21
(4) 現職と教職免許との関係	22
(5) 現職と本学部の今後への期待との関係	23
(6) 現職と総合人間科学研究科への進学希望との関係	23
III 就職先アンケート	24
Q 1 志願者数	24
Q 2 本学部卒業生の特徴	25
Q 3 入社後の特徴	26
Q 4 採用に際して重視する事柄	27
IV 自由記述より	29
付録(1) 卒業生アンケート	49
付録(2) 就職先アンケート	55
おわりに	57

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、発達科学部発足 10 周年を機とし、卒業生からその経験した学部在生活・教育全般についての率直な意見を聞き、今後の本学部における教育・研究環境の整備に役立てることを主要な目的とする。

2 調査対象

(1) 卒業生アンケート

本研究の分析の対象は、神戸大学発達科学部が発足した 1993 年度から 1999 年度に本学部に入学者、2003 年 3 月までに卒業した全学生である。

なお、調査依頼については、神戸大学紫陽会（同窓会）が把握している 2002 年度までの卒業生名簿をもとに、郵送によって調査票の配布を行い、記入後各自に返送をしてもらう形態をとった。

(2) 就職先アンケート

本研究の分析の対象は、神戸大学発達科学部発足後、初の卒業生を出した 1996 年度から 2002 年度に本学部を卒業した学生の主な就職先 58 社である。

なお、調査依頼については、本学部学生掛が把握している 2002 年度までの就職先をもとに、郵送によって調査票の配布を行い、記入後に返送をってもらう形態をとった。

3 調査方法

(1) 実施時期

①卒業生アンケート・・・2003 年 12 月～2004 年 1 月

②就職先アンケート・・・2004 年 1 月

(2) 調査内容

①卒業生アンケート

本学部における教育・学生生活に関する満足度、本学部での学習・経験と現職との関係、今後本学部に期待することなど。

②就職先アンケート

本学部の卒業生の毎年度の志望者数、本学部の卒業生の特徴、採用に際しての重視事項など。

(3) 調査方法

郵送による質問紙法。

4 回収率

(1) 卒業生アンケート

①入学年度別

入学年度	1993年度	1994年度	1995年度	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度
依頼数	232	257	243	259	282	267	227
協力数	78	82	93	89	119	110	71
回収率	33.6%	31.9%	38.3%	34.4%	42.2%	41.2%	31.3%

②学科別

学 科	人間発達科学科	人間環境科学科	人間行動・表現学科
依頼数	767	635	365
協力数	301	226	115
回収率	39.2%	35.6%	31.5%

(3) 就職先アンケート

依頼数 58 (社)

協力数 24 (社)

回収率 41.4%

アンケート調査を依頼した企業・団体は以下のとおりである（順不同）。

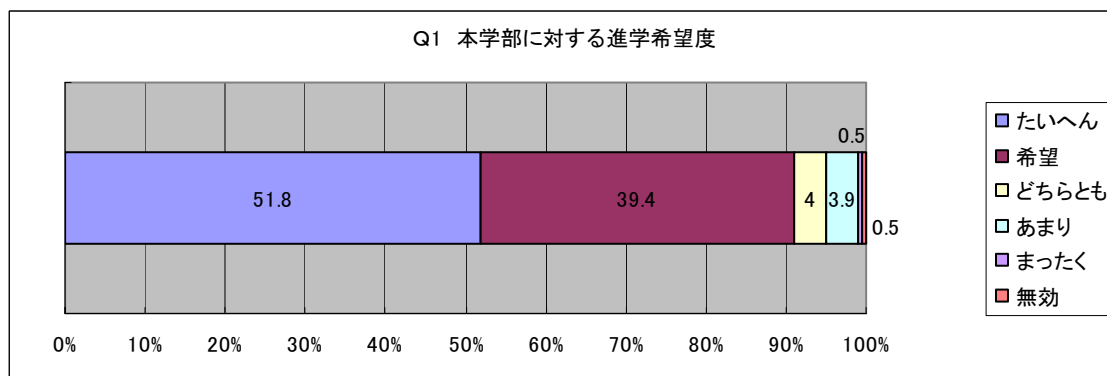
NEC ソフト株式会社、日本生命保険相互会社、サントリー株式会社、積水化学工業株式会社、株式会社ベネッセコーポレーション、日本電気株式会社、株式会社電通、株式会社高島屋、住友生命保険相互会社、西日本旅客鉄道株式会社、株式会社ジェイティービー、株式会社パソナ、株式会社NOVA、イズミヤ株式会社、三井住友カード株式会社、生活協同組合コープこうべ、松下電器産業株式会社、株式会社大成社、真生印刷株式会社、株式会社滋賀銀行、株式会社ジャストシステム、姫路信用金庫、中央出版株式会社、株式会社大丸、学校法人大阪学院大学、株式会社損害保険ジャパン、株式会社アップ、東京海上火災保険株式会社、プロクター・アンド・ギャンブル・ファー・イースト・インク、万有製薬株式会社、財団法人ヤマハ音楽振興会、株式会社さくらケーシーエス、富士通株式会社、TIS株式会社、トランスコスモス株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社日本公文教育研究会、株式会社エイチ・アイ・エス、日本アイ・ビー・エム株式会社、株式会社UFJ銀行、株式会社東京三菱銀行、株式会社岡村製作所、日本通運株式会社、NHK、株式会社TCD、株式会社ミキハウス、アクセンチュア株式会社、コベルコシステム株式会社、積水ハウス株式会社、株式会社ジェーシービー、岩谷産業株式会社、島村楽器株式会社、株式会社富士通関西システムズ、株式会社NTTデータ関西、株式会社京都銀行、ひかりのくに株式会社、ディアンドアイ情報システム株式会社、NECシステムテクノロジー株式会社

II 卒業生アンケート

1 単純集計分析

Q1 本学部に対する進学希望度

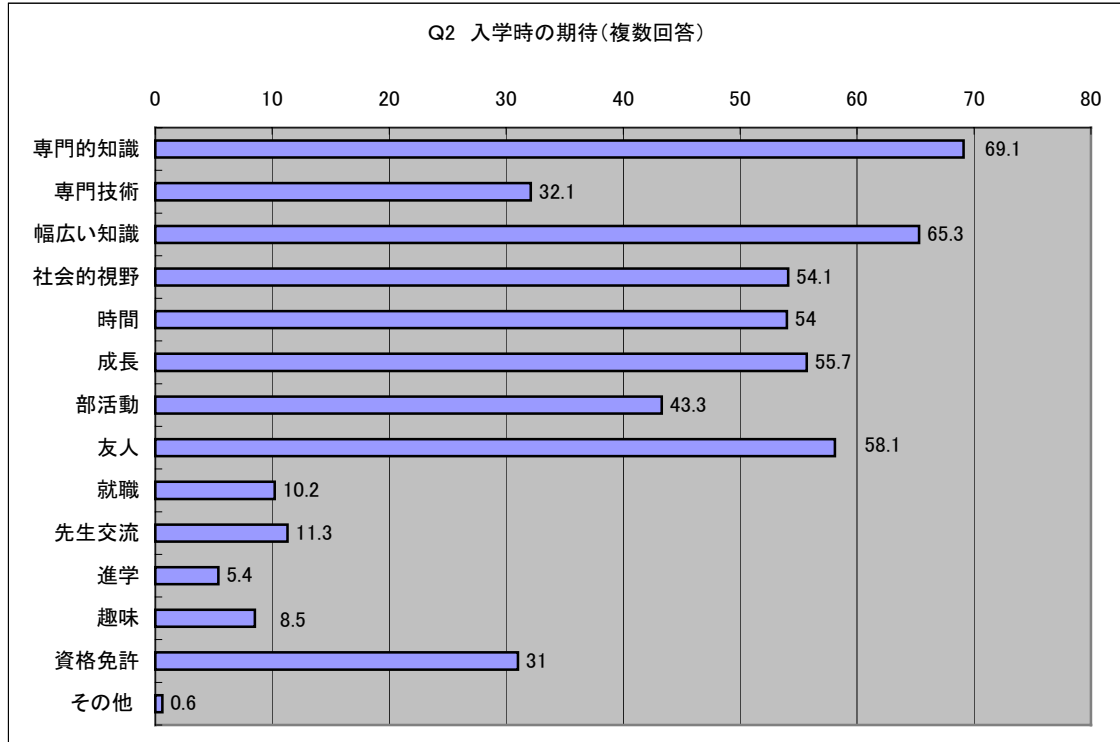
「発達科学部に入学する時、本学部への進学をどの程度希望していましたか。」



選択肢は、「たいへん希望していた」「希望していた」「どちらともいえない」「あまり希望していなかった」「まったく希望していなかった」の5つである。現在置かれている本人の状況によって回答が影響を受けていることを考慮に入れなければならないが、半数が「たいへん希望していた」であり、「希望していた」を加えると約9割となり、ほとんどの学生が希望にそった入学であったといえる。入学年度、学科による差異は認められなかった。

Q2 入学時の期待

「発達科学部に入学した時、本学部での学習や学生生活にどのようなことを期待していましたか。」



13の選択肢のうち、半数を越える者が選択している項目は、高い順に「専門的な知識を得ること」「幅広い知識・教養を得ること」「友人を得ること」「人間的に成長すること」「将来について考える時間や契機を得ること」「社会的視野や経験を広げること」であった。

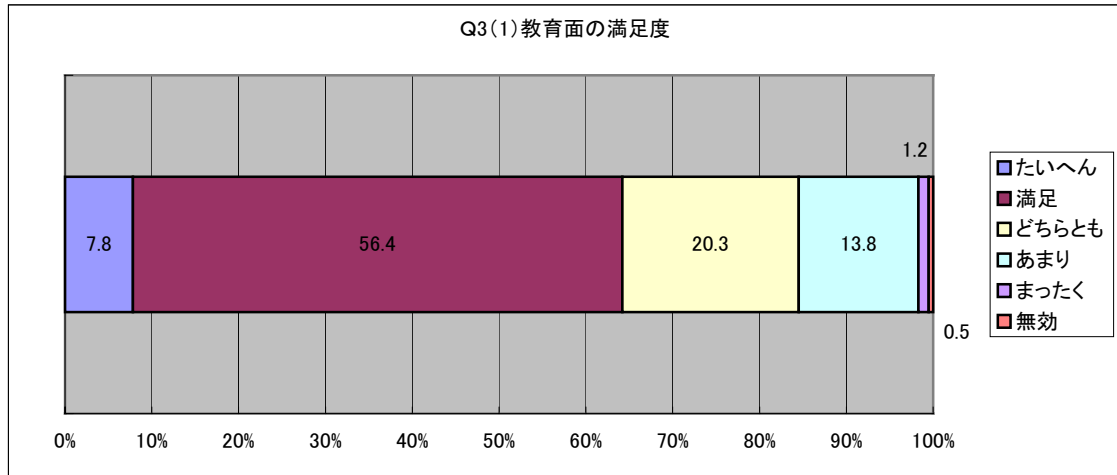
この結果についても、現在置かれている本人の状況によって回答が影響を受けていることを考慮に入れなければならないが、「資格・免許を取得すること」「専門的な技術・技能を獲得すること」がともに約3割という結果などをあわせて考えると、かつて教育学部であった時の資格・免許取得志向や近年の学生の動向として一般的に資格・免許が高いといわれている状況とは学生の志向が異なっている。

これは、教員採用の人数が極端に制限されていた時代状況の反映であるのか、学生が本学部を非教員養成系学部と意識した上で入学した結果であるのかは定かではない。なお、入学年度、学科による有意差は認められなかった。

Q3 本学部に対する満足度

(1) 教育面（講義、演習、ゼミ、研究など）の満足度

「本学部での授業や学生生活は満足のものでしたか。」

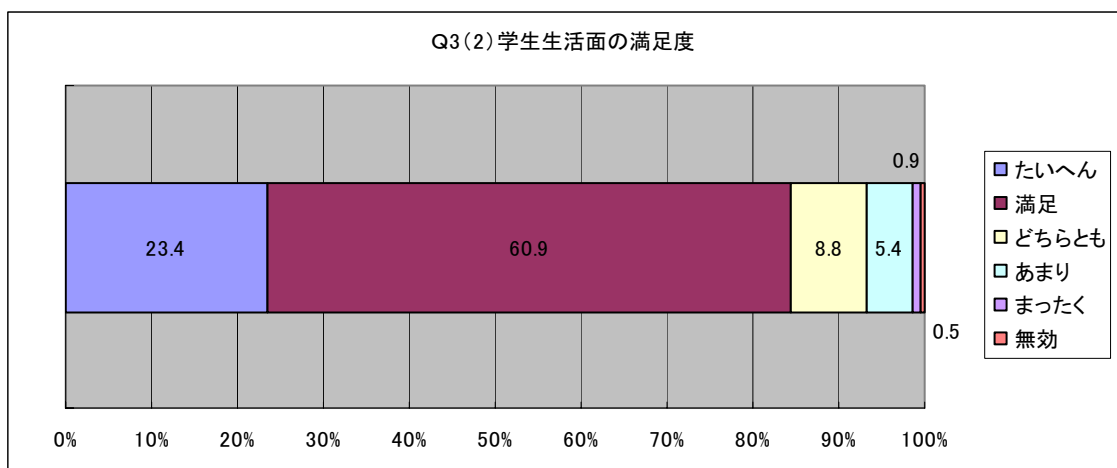


選択肢は「たいへん満足できた」「だいたい満足できた」「どちらともいえない」「あまり満足できなかった」「まったく満足できなかった」の5つである。

半数の者が「だいたい満足できた」と回答しているが、「たいへん満足できた」という者は1割以下である。また、「どちらともいえない」が約2割であり、これらを合わせると、学生にとって本学部の教育があまり満足のものとはなっていなかったようである。具体的な評価についてはQ4において言及する。また、入学年度、学科別の分析はテーマ別分析の項においてクロス集計に基づいた分析を行っている。

(2) 学生生活面の満足度

「本学部での授業や学生生活は満足のものでしたか。」



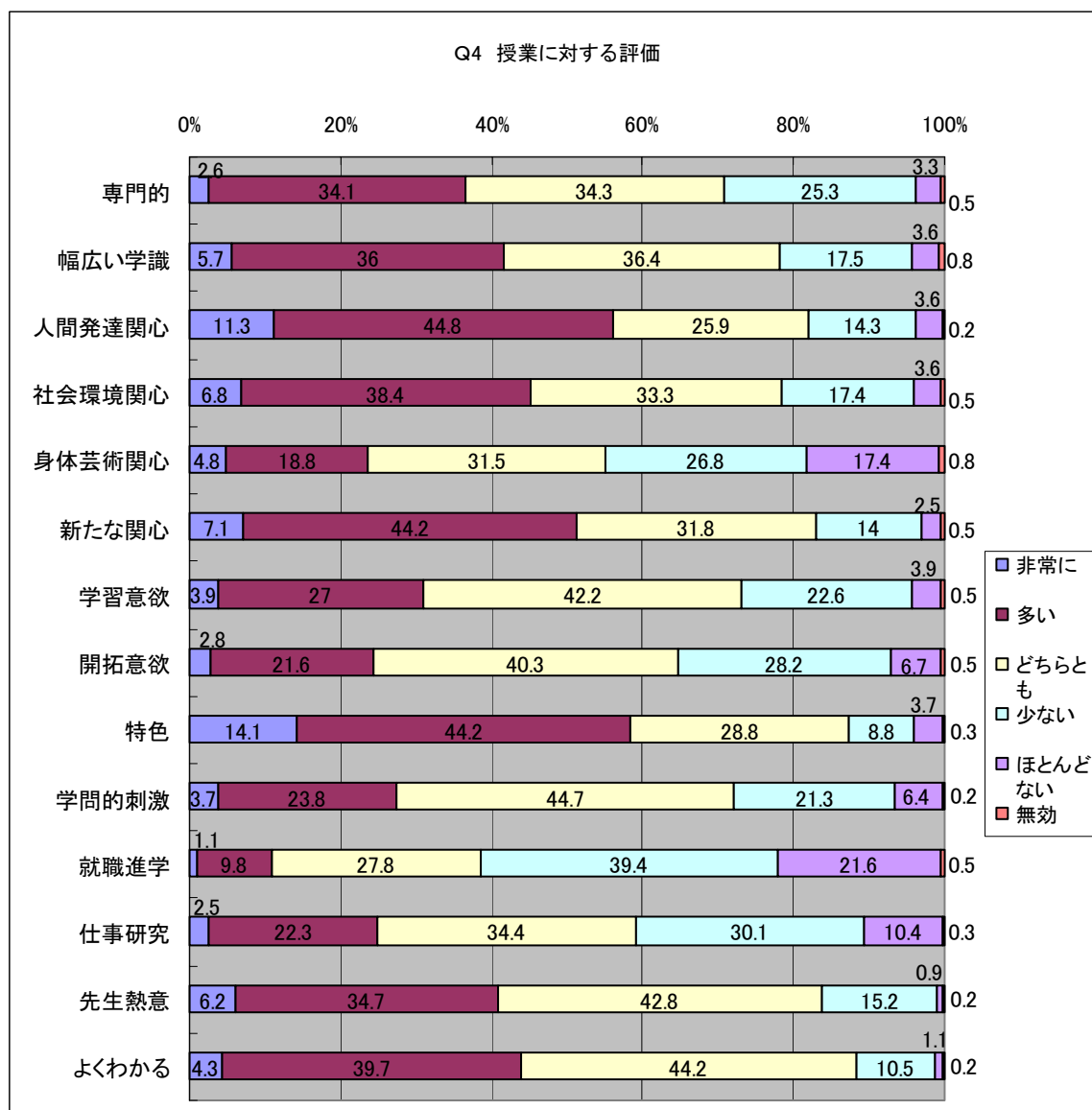
選択肢は「たいへん満足できた」「だいたい満足できた」「どちらともいえない」「あまり満足できなかった」「まったく満足できなかった」の5つである。

「教育面」とは傾向が明らかに異なり、「たいへん満足」が約2割、「だいたい満足でき

た」が約6割と満足度が高い。「どちらともいえない」が1割以下であり、学生の評価がはっきりとしていることが分かる。具体的な評価についてはQ5において言及する。また、入学年度、学科別の分析はテーマ別分析の項においてクロス集計に基づいた分析を行っている。

Q4 授業に対する評価

「本学部で受けた授業全般について、次のようなことに対してどのように思いますか。」



授業に関し14項目について、それぞれ「非常に多かった」「多かった」「どちらともいえない」「少なかった」「ほとんどなかった」の5つで評価を行うことを求めた。

各項目に対する評点（非常に多かった=1 ～ ほとんどなかった=5）の平均を算出したものが次表である。平均値が1に近いほどそうした授業が多かったと評価されていることになる。

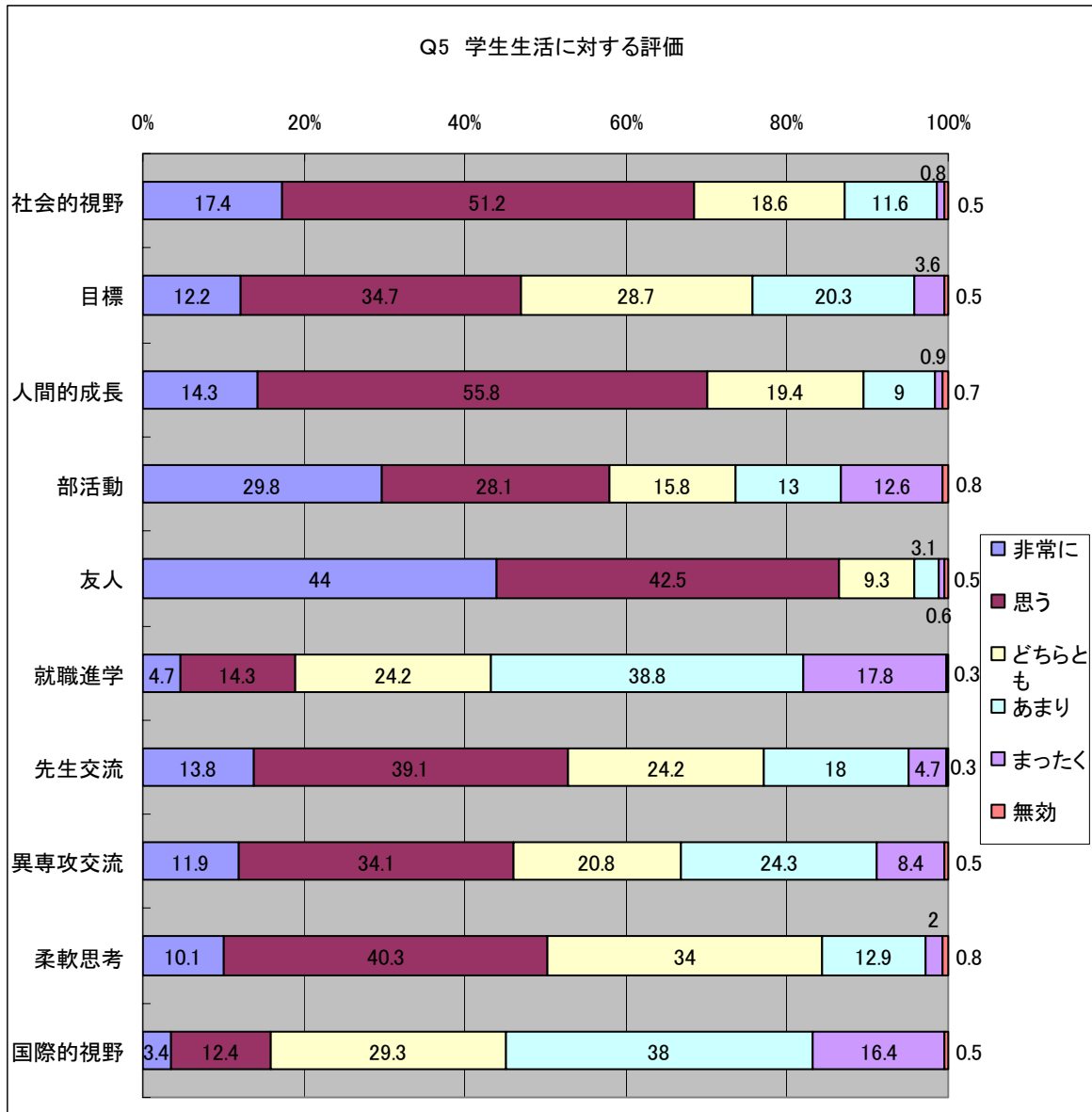
項目	平均値
(1) 専門的に深みのある授業	2.95
(2) 幅広い学際を感じることができる授業	2.82
(3) 人間・発達への興味・関心が深まる授業	2.55
(4) 社会・環境への興味・関心が深まる授業	2.75
(5) 身体・芸術への興味・関心が深まる授業	3.38
(6) 新たな興味・関心が喚起される授業	2.63
(7) 学習意欲が喚起される授業	2.98
(8) 新しい学問領域を開拓する意欲が喚起される授業	3.17
(9) 他学部にはない特色ある授業	2.46
(10) 他専攻の学生にも学問的刺激を与える授業	3.04
(11) 就職・進学に役立つ授業	3.73
(12) 仕事・研究に役立つ授業	3.25
(13) 先生の熱意が感じられる授業	2.71
(14) 内容がよくわかる授業	2.65

評価が高い項目は、「他学部にはない特色ある授業」「新たな興味・関心が喚起される授業」「内容がよくわかる授業」「先生の熱意が感じられる授業」などであり、低い項目は、「就職・進学に役立つ授業」「仕事・研究に役立つ授業」「新しい学問領域を開拓する意欲が喚起される授業」などであった。そこから浮かび上がってくる発達科学部の授業イメージは、内容がわかりやすく先生の熱意が感じられるが、その授業内容は、新たな学問領域を開拓する意欲に欠けており、就職や進学にあまり役立たないというものになる。

「人間・発達への興味・関心が深まる」「社会・環境への興味・関心が深まる」「身体・芸術への興味・関心が深まる」といった項目は、学科との関係も考慮に入れなければならないため、**テーマ別分析**の項においてクロス集計に基づいた分析を行っている。なお、入学年度による有意差は認められなかった。

Q5 学生生活に対する評価

「本学部での学生生活について、次のようなことに対してどのように思いますか。」



授業に関し10項目について、それぞれ「非常に思う」「思う」「どちらともいえない」「あまり思わない」「まったく思わない」の5つで評価を行うことを求めた。

各設問に対する評点（非常に思う＝1 ～ まったく思わない＝5）の平均を算出したものが次表である。平均値が1に近いほどそうした学生生活を送ることができたと評価されていることになる。

項目	平均値
(1) 社会的視野を広げることができた	2.30
(2) 将来の目標を見つけることができた	2.71

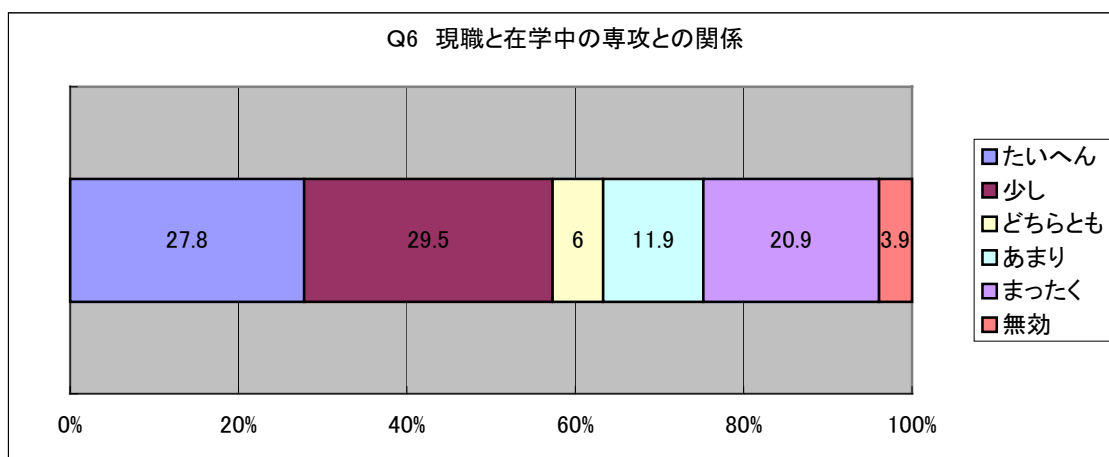
(3) 人間的に成長できた	2.30
(4) 充実した部・サークル活動（全学も含む）ができた	2.55
(5) よい友人を得られた	1.77
(6) 就職・進学に有益な情報や人脈を得ることができた	3.53
(7) 大学の先生との交流を深めることができた	2.62
(8) 専攻の異なる人と交流する機会があった	2.86
(9) 柔軟な考え方ができるようになった	2.61
(10) 国際的な視野を持つようになった	3.54

Q3 (2) によれば、学生生活全般に対する満足度は高かったが、「よい友人を得られた」が 1.77 と非常に高いだけでなく、「人間的に成長できた」や「社会的視野を広げることができた」の項目についても 2.30 と高く評価されている。これらの項目は、入学時において期待していたこと（Q2 参照）でも半数の者があげていた項目であり、期待が叶えられたと言えるであろう。

しかし、ここでも「就職・進学に有益な情報や人脈を得ることができた」は 3.53 と低く、本学部での学習・生活ともに就職には直接役立っているという評価はなされていないことがわかる。なお、入学年度、専攻学科による有意差は認められなかった。

Q6 現職と在学中の専攻との関係

「本学部で専攻した内容と現在の仕事や研究はどの程度関係があると考えますか。」

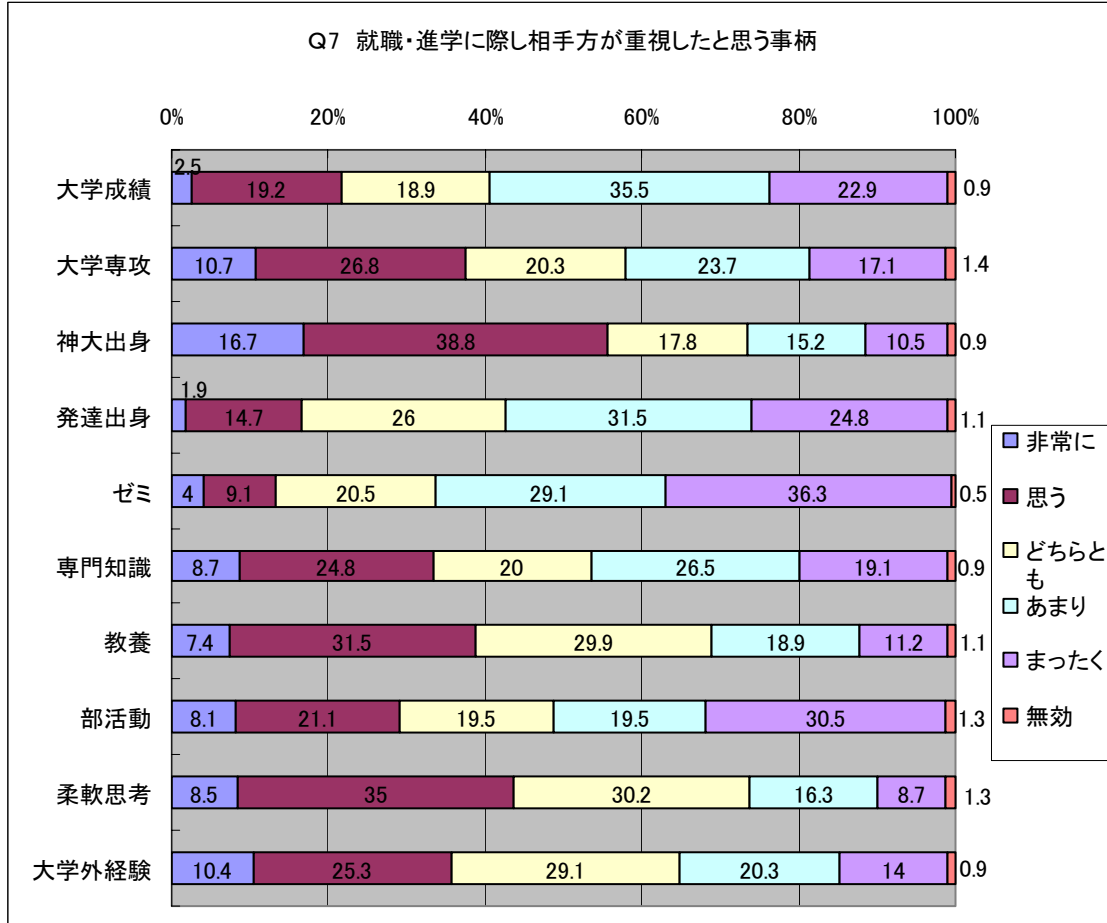


選択肢は、「たいへん関係がある」「少し関係がある」「どちらともいえない」「あまり関係ない」「まったく関係ない」の5つである。

半数の者が現職と専攻が関係があるとしている。これについては、Q14 (2) の現職の業種によって関係の内容が異なると考えられるのでテーマ別分析の項においてクロス集計に基づいた分析を行っている。なお、入学年度による有意差は認められなかった。

Q7 就職・進学に際し相手方が重視したと思う事柄

「本学部卒業後最初の就職や進学に際して、次のようなことを相手方はどの程度重視したと思いますか。」



10 項目について、それぞれ「非常に思う」「思う」「どちらともいえない」「あまり思わない」「まったく思わない」の5つで評価を行うことを求めた。

各項目に対する評点（非常に思う＝1 ～ まったく思わない＝5）の平均を算出したものが次表である。平均値が1に近いほど就職や進学に際し、相手方が重視したと卒業生が思っていることになる。

項目	平均値
(1) 大学での成績	3.63
(2) 大学での専攻	3.18
(3) 神戸大学出身であること	2.70
(4) 発達科学部出身であること	3.69
(5) 所属したゼミ	3.90
(6) 大学で得た専門知識・技術	3.28
(7) 大学で得た知識や教養	3.01

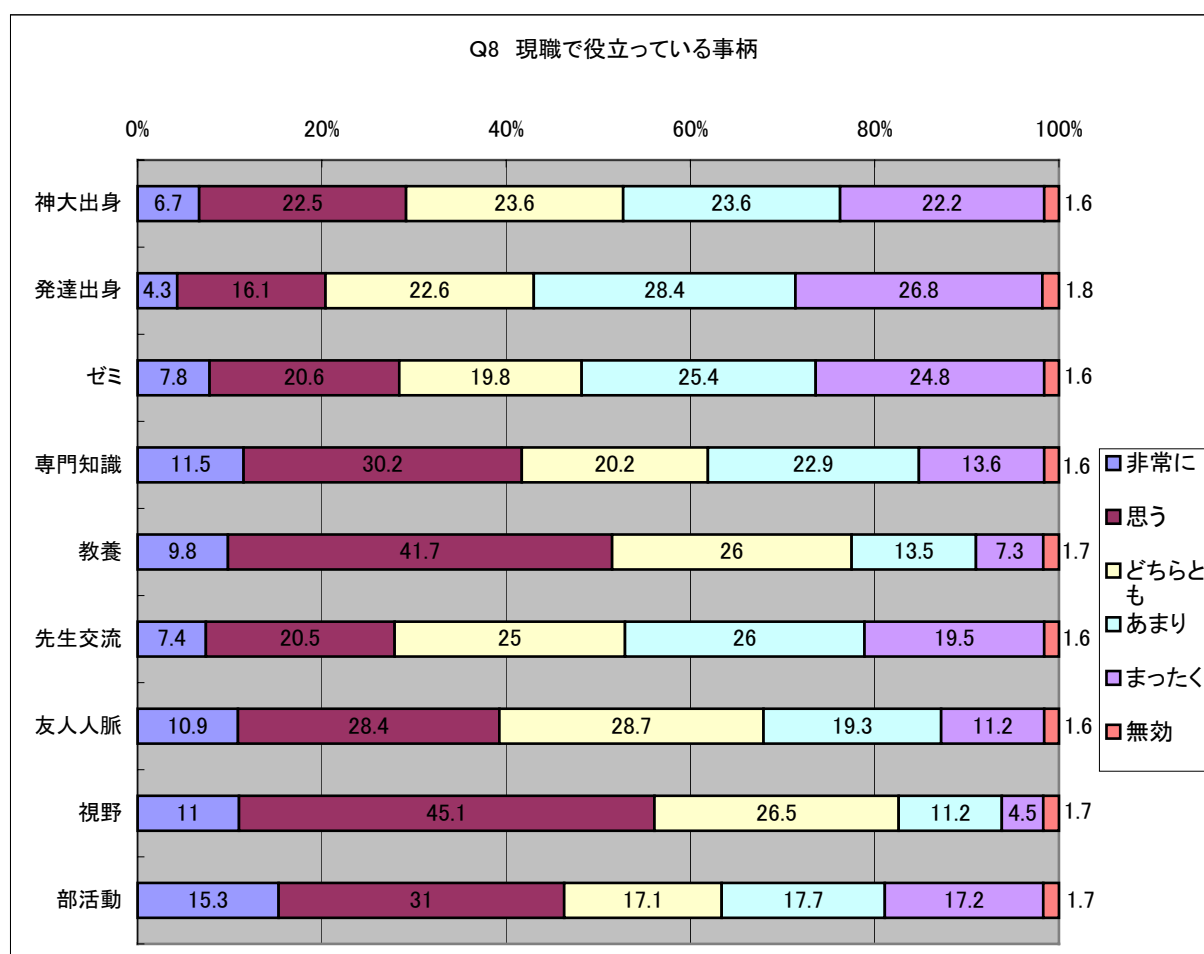
(8)部・サークル活動（全学も含む）での活動や人脈	3.51
(9)大学で培われた広い視野や柔軟な考え方	2.89
(10)大学以外での学習経験	3.08

もっとも高いのは、「神戸大学出身であること」である。神戸大学の名が就職に際し、一定の有効性をもっていることがうかがえる。しかし、「発達科学部出身であること」はあまり重視されなかったと思われるようであり、就職に際し学部としての地位を確立していると考えられていないようである。

また、「大学での成績」や「所属したゼミ」についてもあまり重視されたとされていないようであり、学部教育の成果をどのように考えるべきかの問題を提起する結果となっている。

Q8 現職で役立っている事柄

「現在の仕事や研究を行う上で、次のようなことはどの程度役立っていると思いますか。」



9項目について、それぞれ「非常に思う」「思う」「どちらともいえない」「あまり思わない」「まったく思わない」の5つで評価を行うことを求めた。

各項目に対する評点（非常に思う＝1 ～ まったく思わない＝5）の平均を算出したものが次表である。平均値が1に近いほど仕事や研究を行う上で役立っていると卒業生が思っていることになる。

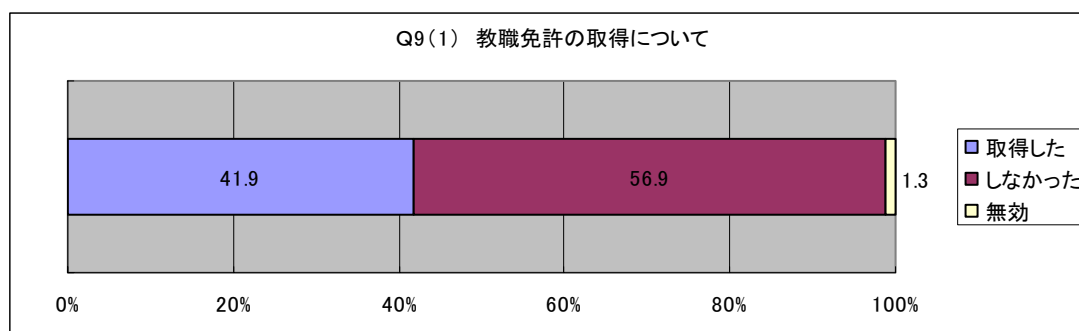
項目	平均値
(1)神戸大学出身であること	3.41
(2)発達科学部出身であること	3.67
(3)所属したゼミ	3.48
(4)大学で得た専門知識・技術	3.06
(5)大学で得た知識や教養	2.77
(6)大学の先生との交流	3.39
(7)大学で得た友人や人脈	3.01
(8)大学で培われた広い視野や柔軟な考え方	2.63
(9)部・サークル活動（全学も含む）で培われたもの	3.01

「大学で培われた広い視野や柔軟な考え方」がもっとも高い。これは、**Q7**における同一の項目が高いことと関連していると考えられる。

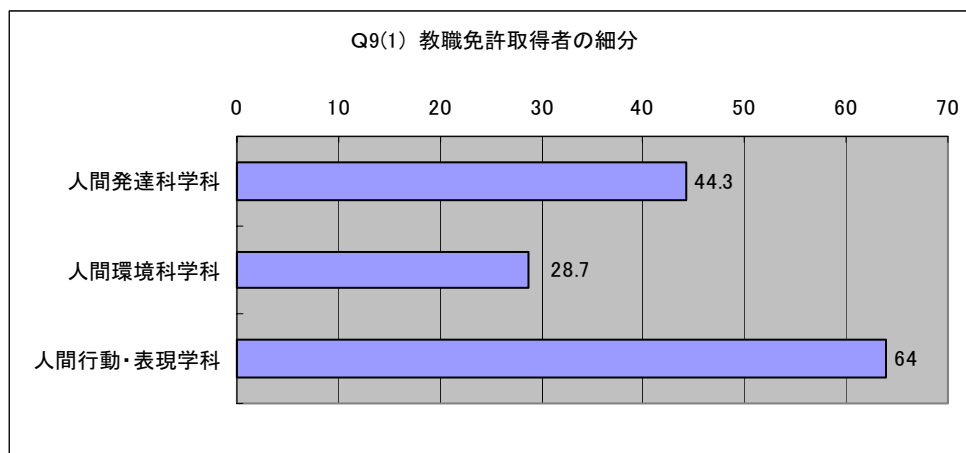
Q7の項目と一致する項目の平均値を比較してみると、値が上昇している項目は「所属したゼミ」(0.42)、「大学で培われた広い視野や柔軟な考え方」(0.26)、「大学で得た知識や教養」(0.24)、「大学で得た専門知識・技術」(0.22)であった。逆に、下がっているのは「神戸大学出身であること」であり、0.71ポイント降下している。この結果については、個々の卒業生の現職との関係、個人内比較を行う必要があるが、全体として就職後は大学教育や生活で得たことが役立っていると考えられていると言える。

Q9 教職免許の取得について

「本学部在学中、教職免許を取得しましたか。」

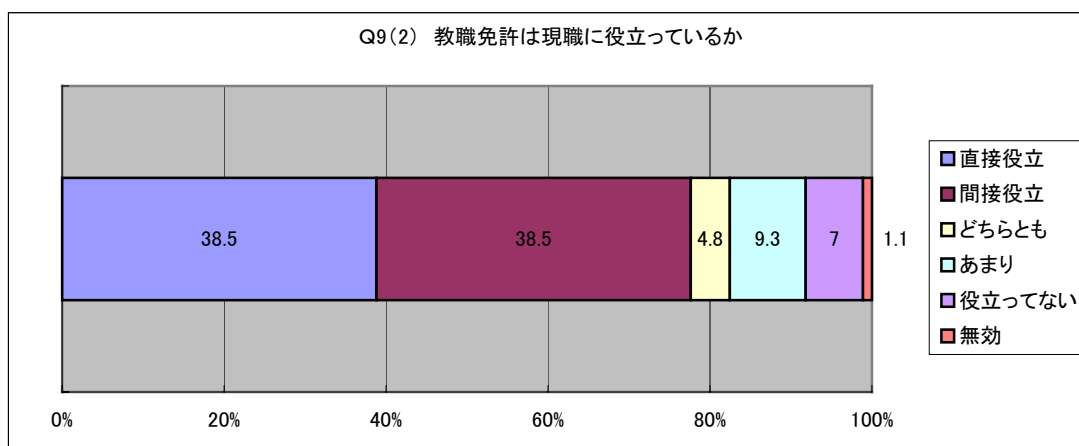


(教職免許を取得した者を母数とする)



Q2において「資格・免許を取得すること」を入学時に期待していた学生が約3割であったのに対して、実際に教職免許を取得した学生は約4割であった。

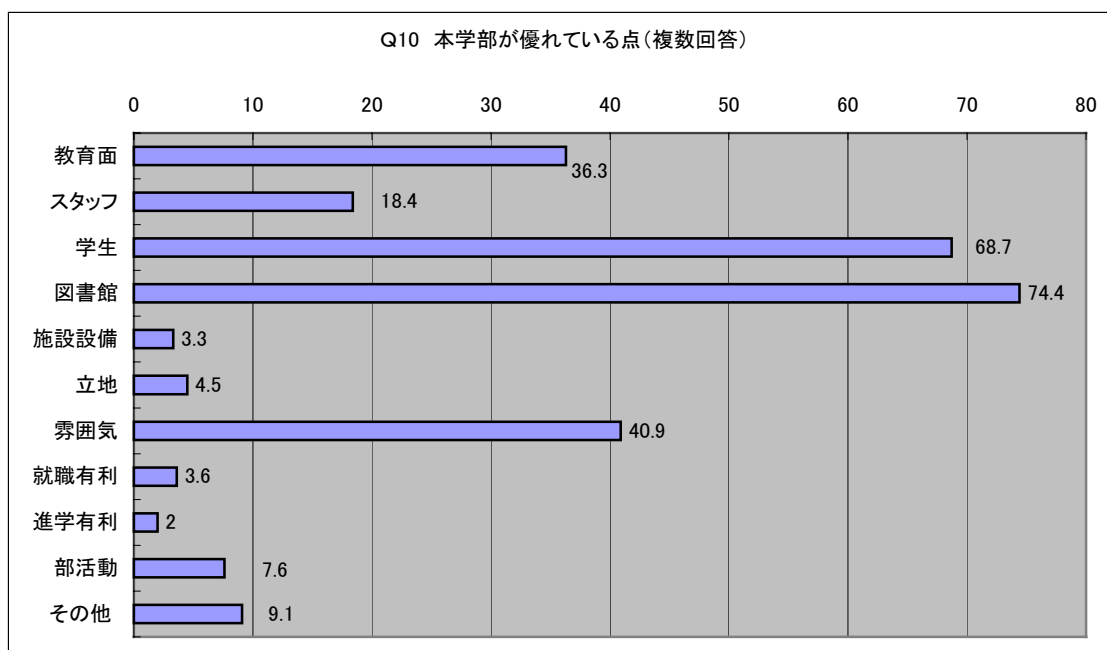
「教職免許やそこで学習したことは、現在の仕事や生活において役に立っていると思いますか。」(教職免許を取得した者を母数とする)



教職免許を取得した学生は、約4割が「直接的に役立っている」、約4割は「間接的に役立っている」と回答している。これについては現職との関係についても考慮する必要があるため、テーマ別分析の項においてクロス集計に基づいた分析を行っている。

Q10 本学部の優れている点

「発達科学部が他大学や他学部 비해、優れていると思うところはどこですか。」

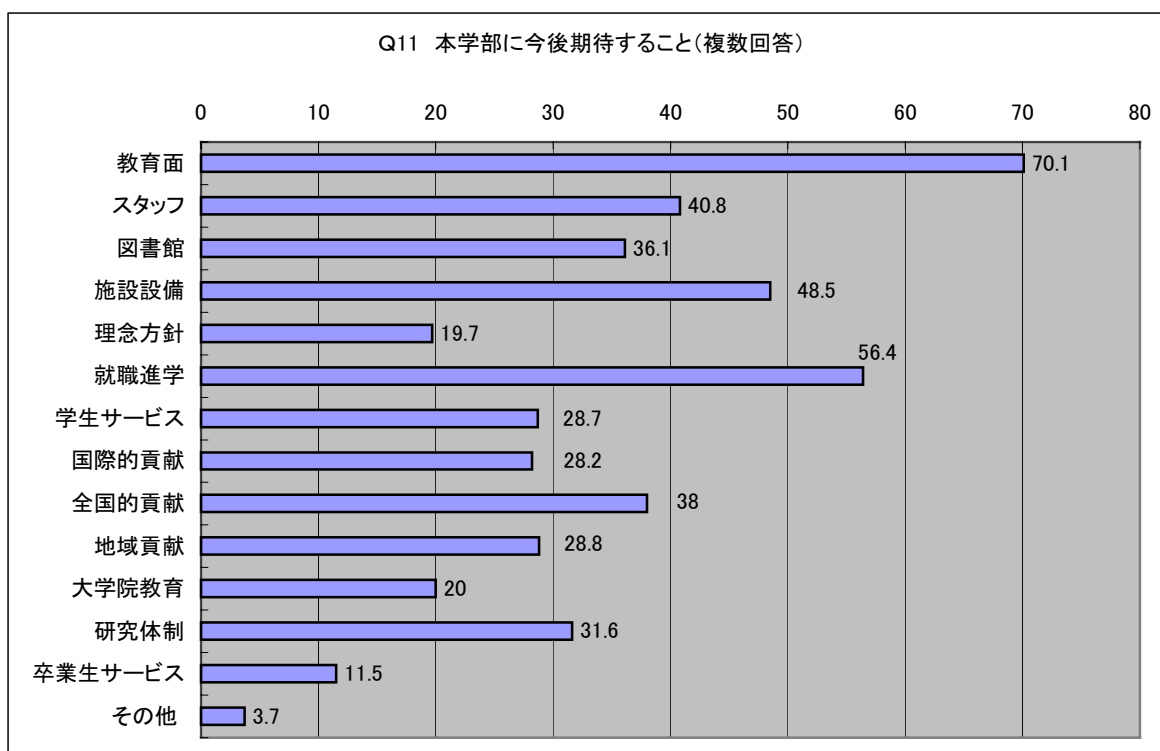


「図書館」という回答がもっとも多く7割を超えている。蔵書数一つとっても、発達科学部の図書館が他学部の図書館や他大学の図書館に比較して決して優れているとは言えないのに、なぜ多くの回答者の支持を集めたのかは興味深い点である。

「学生」も約7割と高い。これは、**Q5**や**Q8**において「よい友人を得た」との回答が高いことと一致する。このような「学生」仲間が**Q3 (2)**の回答結果に示されているように、学生生活を満足度の高いものにした一因であると考えられる。

Q11 本学部に今後期待すること

「発達科学部の今後に期待することは何ですか。」

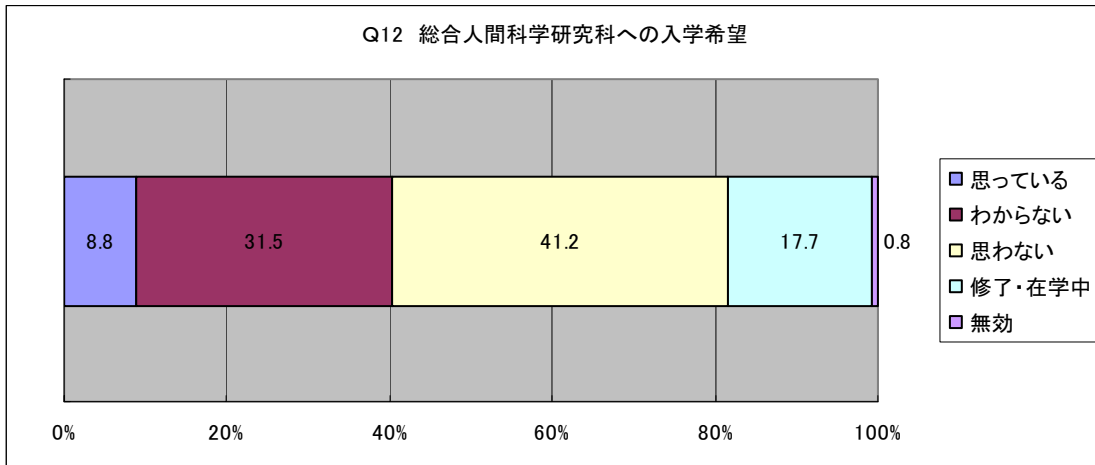


今後期待することでは、「教育面（講義、演習、ゼミ、研究など）の改善・充実」がもっとも高く、ついで、「就職・進学への取り組み姿勢」である。

「教育面（講義、演習、ゼミ、研究など）の改善・充実」についての満足度は、**Q3 (1)** および**Q4**の回答結果からみても高いとは言えないことから、今後への期待として挙げられていることは当然の帰結であろう。また、「就職・進学への取り組み姿勢」については、**Q4**や**Q7**において言及したように、卒業生からの評価は高いとはいえない。今後改善・充実が期待されるゆえんである。

Q12 総合人間科学研究科への入学希望

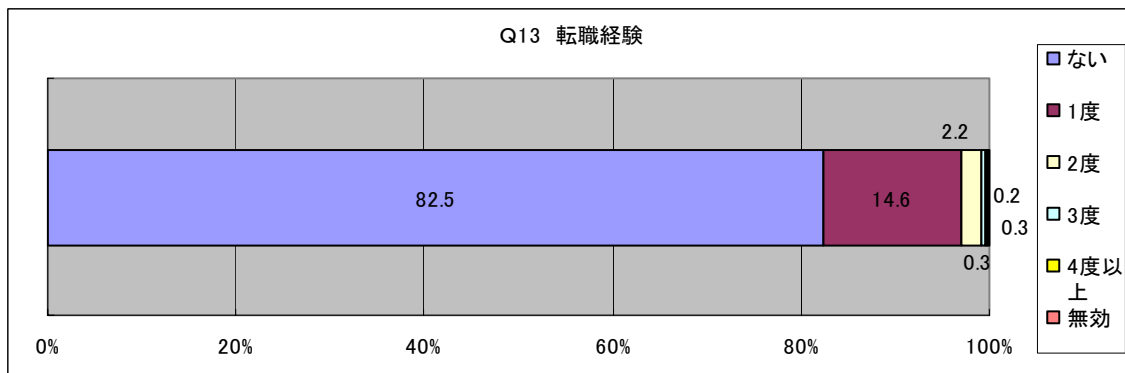
「現在あるいは将来において、総合人間科学研究科（大学院）で学習や研究をしたいと考えますか。」



「修了・在学中」が約 2 割、「思っている」者が約 1 割であり、卒業生のニーズは約 3 割というところである。発達科学部だけでなく、総合人間科学研究科も多様な専攻から構成されている研究科であるため専攻にもよるであろうが、総合人間科学研究科への進学が就職や大学院後期課程への進学に有利となっているか、その点について総合人間科学研究科における調査が必要であろう。

Q13 転職経験

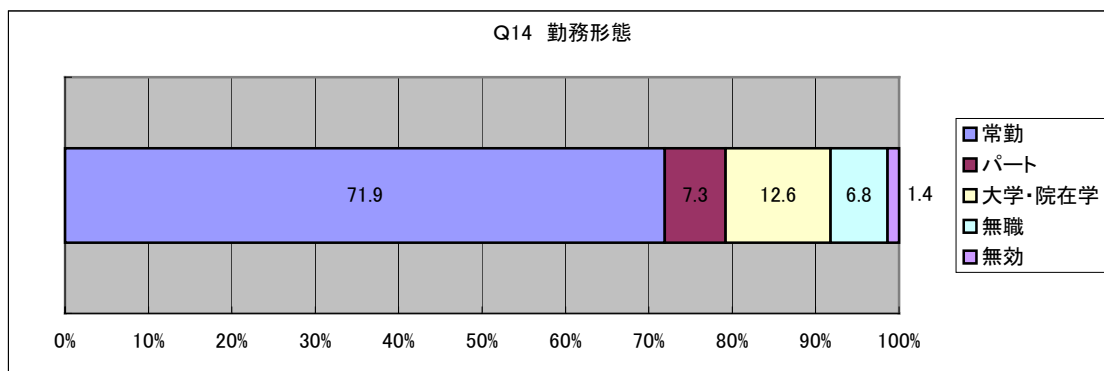
「本学部を卒業後これまでに転職の経験をお持ちですか。」



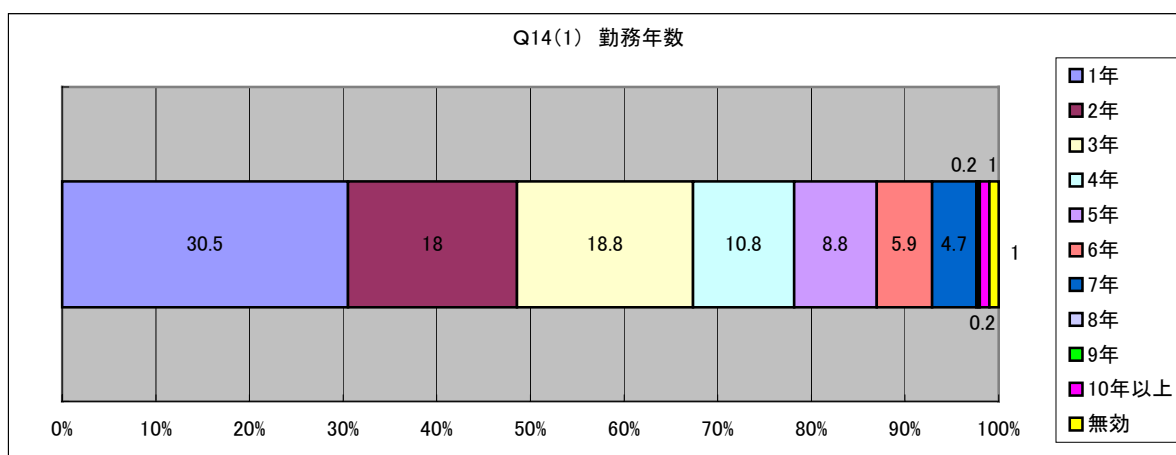
Q14 現職

現職について次のような角度からいくつか質問を行った。とくに分析は行わないが、卒業生の職業に係わる一面がみえると思われる。

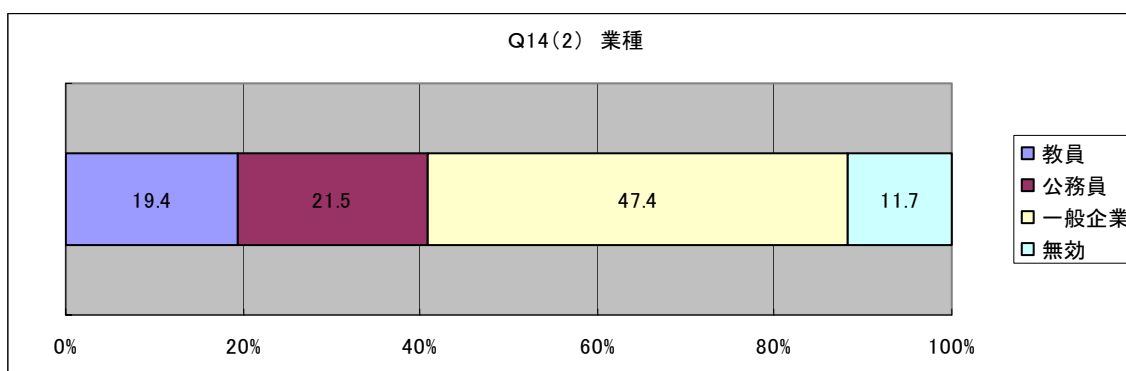
「現在の仕事についてお聞きします。現在何かお仕事をしていますか。」



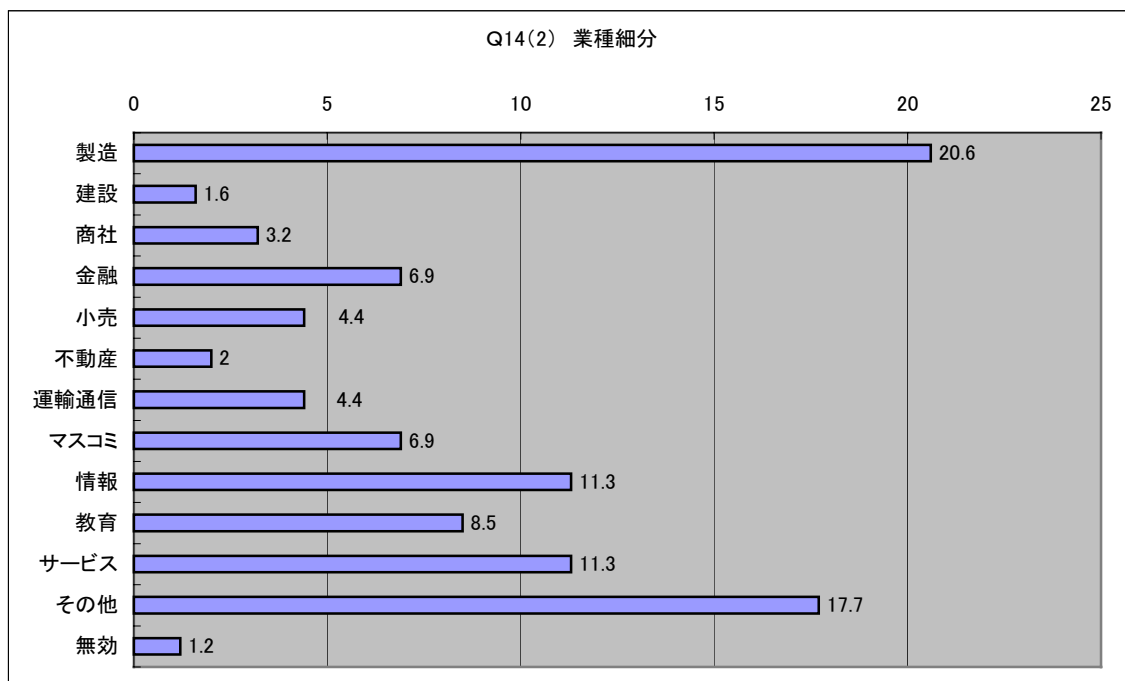
「現在の仕事に就かれて何年ですか。」（「常勤」「パート」と回答した者を母数）



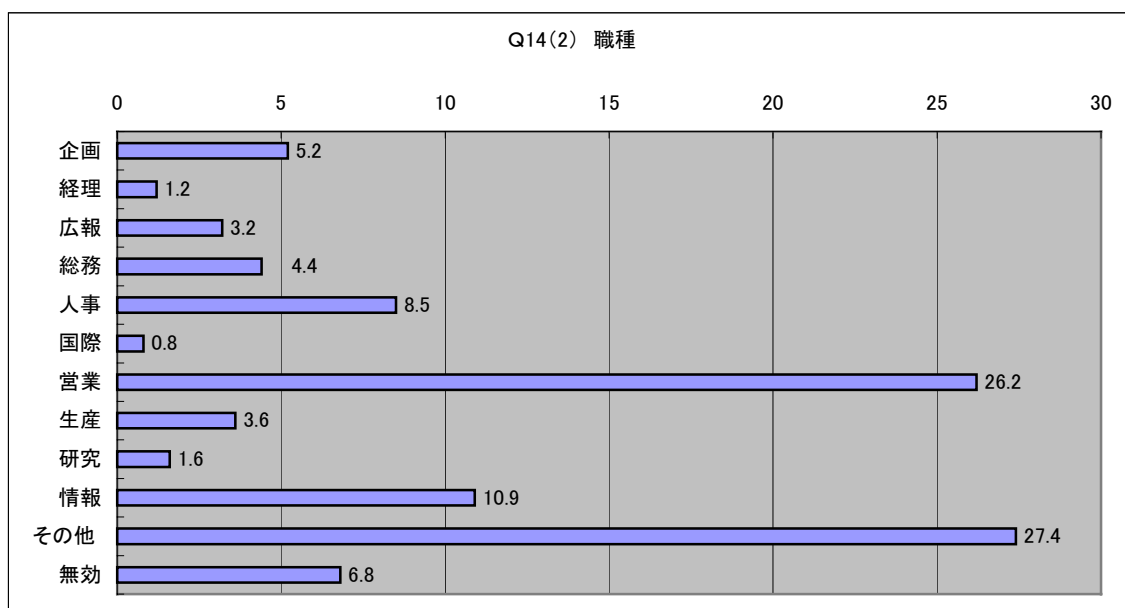
「現在の仕事は主にどのような業種ですか。」（「常勤」「パート」と回答した者を母数）



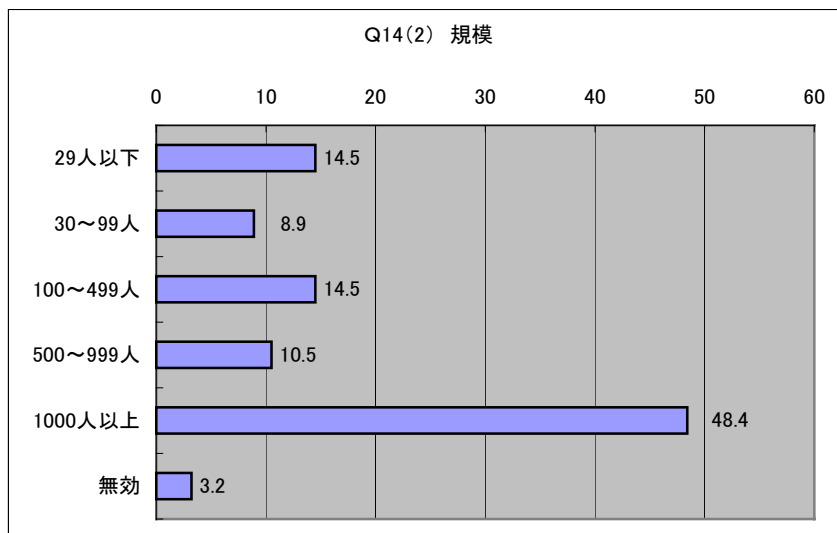
(「一般企業・自営」と回答した者を母数)



「現在の主な職種は何ですか。」(「一般企業・自営」と回答した者を母数)



「現在の会社の規模はどれですか。」（「一般企業・自営」と回答した者を母数）



2 テーマ別分析（クロス集計）

(1) 本学部への進学希望度と本学部に対する満足度との関係（Q1×Q3）

本学部への進学希望度のグループ間平均値をとると、次のようになる。教育面では、平均に有意差は認められないが、学生生活面では有意差が認められる。

①教育面

Q1 選択肢	たいへん	希 望	どちらとも	あまり	まったく
平均値	2.3474	2.5020	2.7692	2.7200	3.0000

$p < .013$

②学生生活面

Q1 選択肢	たいへん	希 望	どちらとも	あまり	まったく
平均値	1.8852	2.0553	2.2692	2.3200	2.6667

$p < .005$

(2) 学科と授業評価との関係

Q4の項目のなかで、専攻学科によって平均値に有意差が認められたものは次の項目であった。

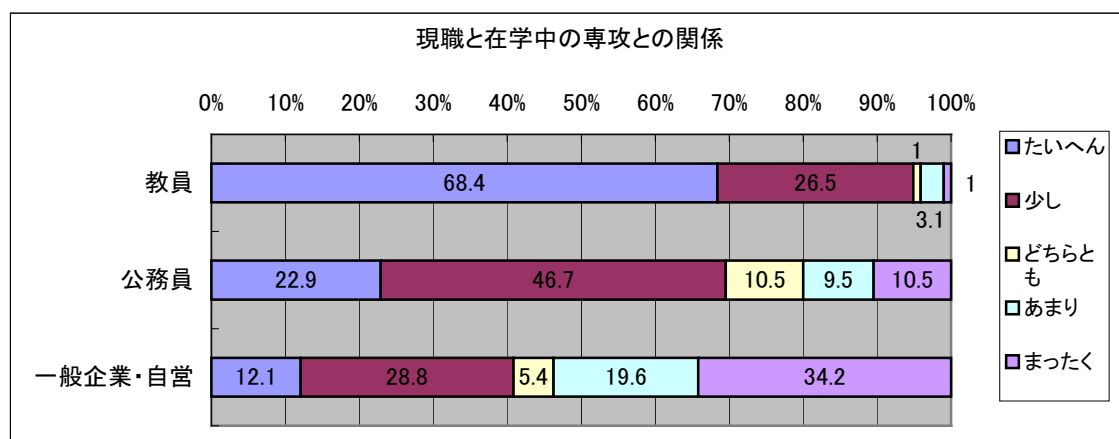
項 目	人間発達 科学科	人間環境 科学科	人間行動・ 表現学科
(1) 専門的に深みのある授業	2.8013	3.2168	2.8291
(2) 幅広い学際を感じることができる授業	2.9901	2.5487	2.8974
(3) 人間・発達への興味・関心が 深まる授業	2.1589	2.9867	2.7094
(4) 社会・環境への興味・関心が 深まる授業	2.8907	2.3186	3.2222
(5) 身体・芸術への興味・関心が 深まる授業	3.4272	3.9690	2.1111
(14) 内容がよくわかる授業	2.5132	2.7743	2.7778

$p \leq .001$

(3) 現職との関係

①現職と在学中の専攻との関係

現職をQ14によって「教員」「公務員」「一般企業・自営」に分け、現職と大学での専攻との関係について分析したものが次のグラフである。



当然のことではあるが、「教員」においては「たいへん関係ある」が約7割である。しかし、その一方で「一般企業・自営」では「まったく関係ない」が3割以上である。「あまり関係ない」を合わせると5割を超えていることになり、大学での専攻との関係の低さがはっきりと現れている。「公務員」については、「たいへん関係がある」と「少し関係がある」を合わせると7割近くとなり、学部における専攻と何らかの関係があると考えられていることが特徴である。

②役立っていることと現職との関係

現職をQ14によって「教員」「公務員」「一般企業・自営」に分け、Q8における現在の仕事や研究に役立っている程度の分析を行った。ほとんどの項目で「一般企業・自営」の平均値が3グループ中もっとも低くなった。平均値で有意差が認められたのは、次の項目である。この結果から「一般企業・自営」の卒業生の多くは、本学部における学習・経験が現職に十分に役立っているとは感じていないと言えるであろう。

項目	教員	公務員	一般企業・自営
(2) 発達科学部出身であること	3.2755	3.3714	3.9042
(3) 所属したゼミ	3.3030	3.2667	3.7458
(6) 大学の先生との交流	3.1429	3.0762	3.6083
(7) 大学で得た友人や人脈	2.6701	2.6762	3.0958

$p \leq .001$

③就職時に重視された項目と現在役立っている項目の相違

次の表は、現職をQ14にそって「教員」「公務員」「一般企業・自営」に分け、Q7とQ8において一致する項目について、各個人のQ7の値からQ8の値を減算したものの平均

値である。

これによると、「神戸大学出身であること」はすべての業種で一旦就職してしまうと役立っているという実感が減少しているといえる。しかし、その他の項目については、かなり傾向が異なる。

「教員」や「公務員」では、就職後には「所属したゼミ」が役立っているという評価が高くなる。「一般企業・自営」と比較すると「神戸大学出身であること」の低下も小さい。これは、就職に際して教員や公務員は教員採用試験や公務員採用試験という形態を取るため、個別の出身大学・学部が直接的に関係することがないためであると考えられる。一方、「一般企業・自営」では、就職後大きく低下している項目が目立つ。

項 目	教 員	公務員	一般企業・自営
神戸大学出身であること	-.5200	-.3784	-.9597
発達科学部出身であること	.1200	.2342	-.0847
所属したゼミ	.8200	.4324	.2984
大学で得た専門知識・技術	.3900	.0721	.1734
大学で得た知識や教養	.4000	.2072	.2298
大学で培われた広い視野や柔軟な考え方	.2323	.0180	-.3629

(4) 現職と教職免許との関係

①教職免許取得率

次の表は、現職をQ14によって「教員」「公務員」「一般企業・自営」に分け、Q9とクロス分析したものである。

業 種	教 員	公務員	一般企業・自営
取得率	98.0	32.4	29.4

②教職免許の有益さ

次の表は、現職をQ14によって「教員」「公務員」「一般企業・自営」に分け、Q7で「教職免許を取得したもの」が教職免許やそこで学習したことが現在の仕事や生活で役に立っているか否かの平均値を比較したものである。

業 種	教 員	公務員	一般企業・自営
平均値	1.1237	2.5000	2.9167

$p < .001$

「教員」において「役立っている」という評価は当然のことであるが、「公務員」や「一般企業・自営」におけるこの数値を高いと見るか、低いと見るかは判断の分かれるところであろう。発達科学部における教員養成課程の位置づけを判断するには、免許取得者で教職についていないこれらの卒業生についても、免許取得の目的、さらには、役に立っている

ると評価するポイントについてのさらなる調査が必要であろう。

(5) 現職と本学部の今後への期待との関係

次の表は、現職を **Q14** によって「教員」「公務員」「一般企業・自営」に分け、**Q11** の本学部に今後期待する項目を比較し、業種によって有意差が認められた項目である。本学部出身で「公務員」に就いている卒業生は、地方公務員が多いこともあり、「地域・地元での活躍・貢献」を期待するのであろう。また、「一般企業・自営」では、就職先が「1000人以上」の大企業が約5割であることから、「地域・地元での活躍・貢献」よりも「国際的分野での活躍・貢献」が望まれるのであろう。

項 目	教 員	公務員	一般企業・自営
⑧国際的分野での活躍・貢献	17.0	18.0	36.7
⑩地域・地元での活躍・貢献	13.0	40.5	28.6

p<.001

(6) 現職と総合人間科学研究科への進学希望との関係

次の表は、現職を **Q14** によって「教員」「公務員」「一般企業・自営」に分け、**Q12** の総合人間科学研究科への進学希望率とクロス集計したものである。

これによれば、「教員」がもっとも希望が高く、「修了・在学」と「進学希望」を合わせると約3割となる。しかし、「一般企業・自営」では、合わせても15パーセント程度であり、「教員」の半数である。

現在、大学院志向が高まっていると言われるが、発達科学部において、これらの数値をどう読むのか、総合人間科学研究科の教育目的の見直しも含めて考える必要があると言えよう。

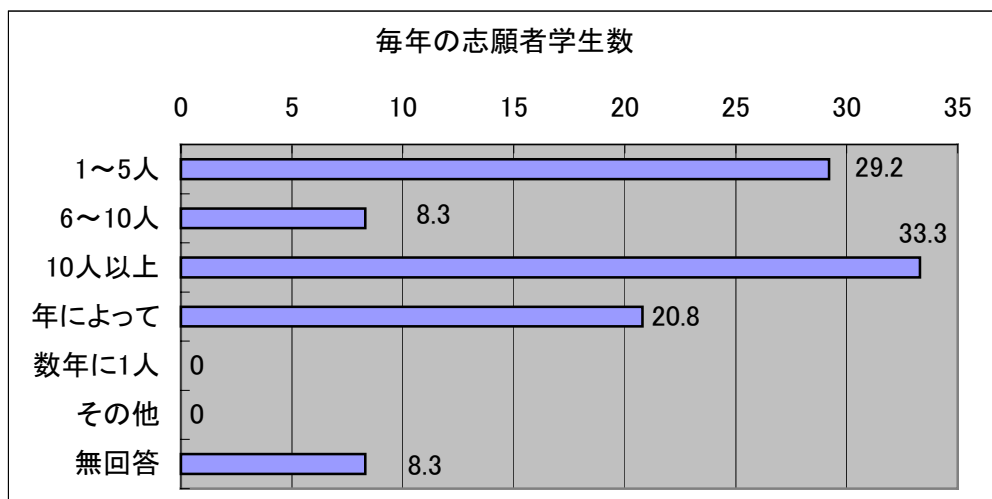
	教 員	公務員	一般企業・自営
進学希望	18.2	7.4	6.9
修了・在学	14.1	17.6	8.5

p<.001

Ⅲ 就職先アンケート

Q 1 志願者数

「本学部の卒業生は、毎年何人ぐらい志願していますか。(採用、不採用に関わりません)」



今回、就職先アンケートの対象とした企業・団体は、本学部が1997（平成9）年3月に初めての卒業生を輩出して以来、通算で3名以上の卒業生が就職している主な企業・団体である。

Q 1 の回答からも分かるように、アンケート依頼を行った企業等の約7割が、本学部からの志願者が毎年あり、中でも4割を超える企業等で毎年6名以上の志願者があり、発達科学部の卒業生には就職先として人気の高い企業等である。そのため、これらの企業等は採用時に関しても本学部の学生と接する度合いが高く、アンケート調査の結果には他大学・学部と比較した本学部の学生の特徴が色濃く反映されていると考えられる。

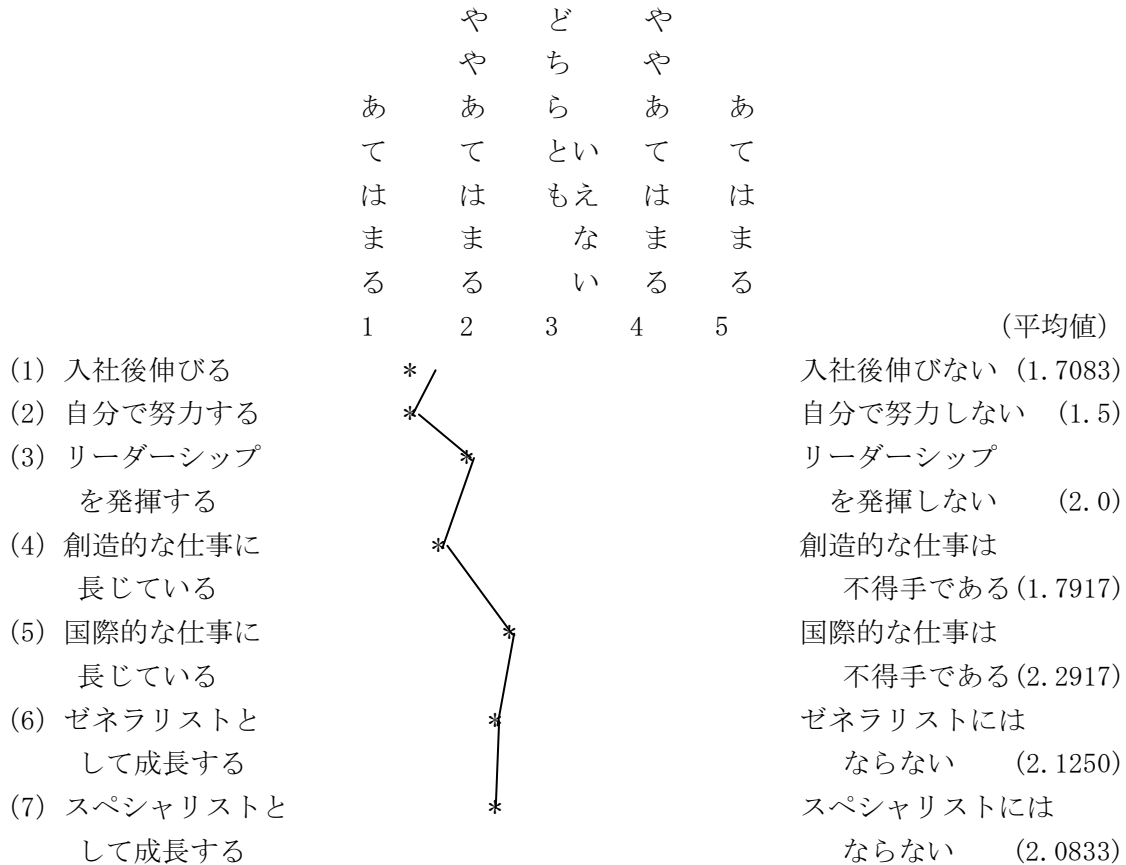
Q2 本学部卒業生の特徴

「本学部の卒業生は、他の大学・学部の卒業生と比べて総じてどのような特徴があるとお感じでしょうか。」

	あ	や	ど	や	あ	(平均値)
	て	や	ち	や	て	
	は	あ	ら	あ	は	
	ま	て	とい	て	ま	
	る	は	もえ	は	る	
	1	ま	ない	ま	5	
	2	る	い	る	5	
(1) 意欲的である						意欲がない (1.5833)
(2) 判断力に優れている						判断力が乏しい (1.8333)
(3) 責任感が強い						責任感がない (1.4167)
(4) 個性が豊か						画一的である (2.1667)
(5) 創造力に富んでいる						創造力が乏しい (2.0833)
(6) 専門的な知識が豊富						専門的な知識が乏しい (2.25)
(7) 幅広い知識を有する						知識の幅が狭い (2.0417)
(8) 国際的な視野を有する						国際的な視野が狭い (2.25)

Q3 入社後の特徴

「この10年間に貴社に採用された本学部の卒業生には、他の大学・学部の卒業生と比べて入社後どのような特徴があるとお感じでしょうか。」

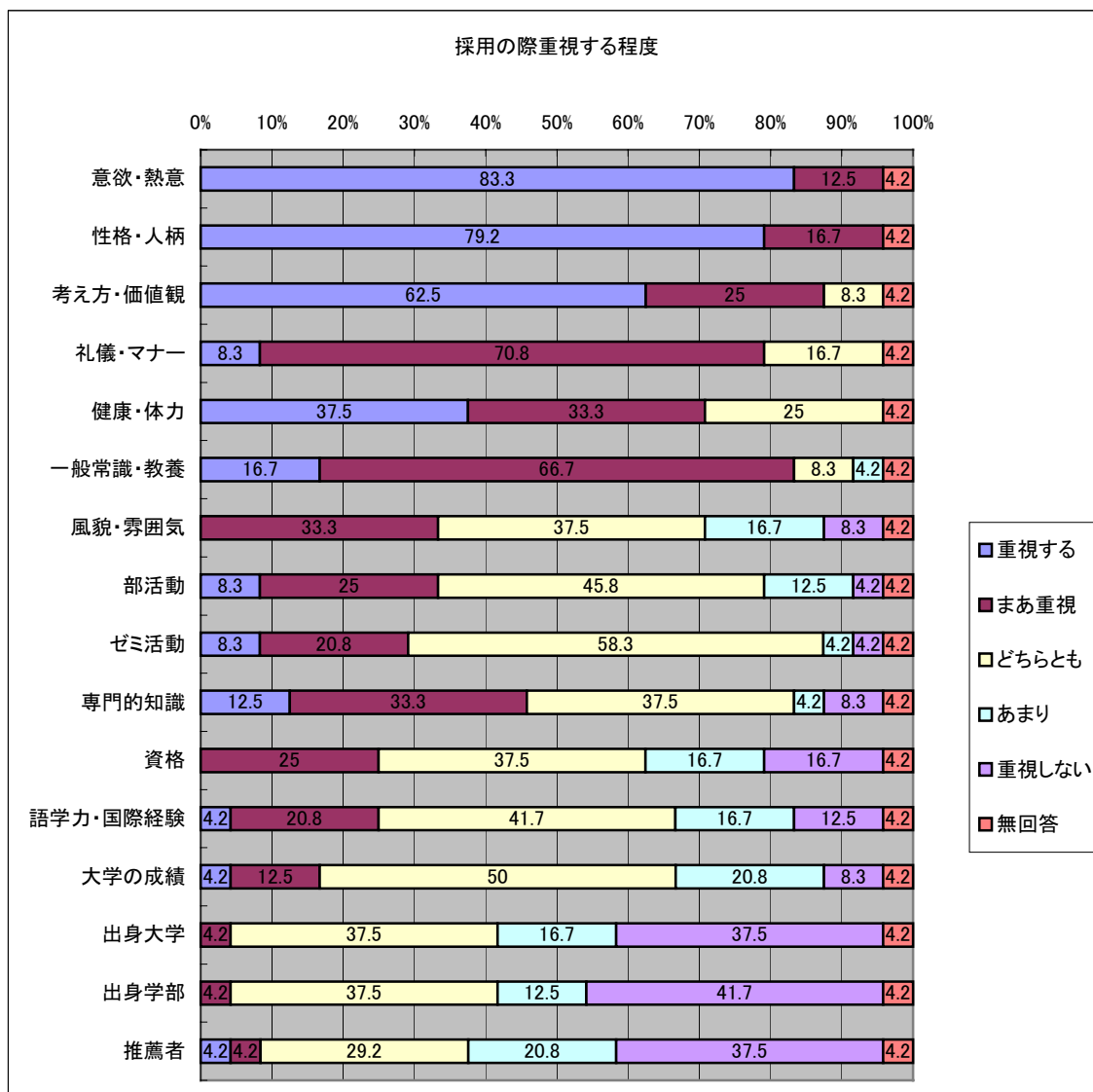


本学部卒業生の特徴に関して、**Q2**、**Q3**で質問した。**Q2**では入社前（採用段階）の本学部の卒業生の特徴を聞いているが、企業等は本学部の卒業生を設問事項に関して概ね好意的にとらえている。ただ、「専門的知識が豊富か否か」「国際的な視野を有するか否か」については設問事項中、平均値が最低であり、きわだって特徴的だとは考えていないようである。また、**Q3**の入社後の特徴についても「国際的な仕事に長じているか否か」は平均値が最低であり、この点に関して、目立った能力を發揮しているとは言い難い結果となった。このように、発達科学部の卒業生は「国際的」な視野を有したり、「国際的」な仕事に長じているかについて、他の大学・学部と比較してとくに秀でているとは言えないようである。このことは「Ⅱ 卒業生アンケート」の**Q5**「学生生活に対する評価」において、本学部での学生生活で「国際的な視野をもつようになったかどうか」の問いに卒業生の多くが否定的な回答をしていることと通じており、今後、本学部が取り組むべき改善点の一つの方向性を示唆しているように感じられる。

Q4 採用に際して重視する事柄

採用に際し16項目について、それぞれ「重視する」「まあ重視する」「どちらともいえない」「あまり重視しない」「重視しない」の5つで評価を行うことを求めた。各項目に対する評点（重視する＝1～重視しない＝5）の平均を算出したものが次表である。平均値が1に近いほど重視することになる。

「貴社は、一般に採用に際して、以下の項目をどの程度重視されますか。」



項目	平均値	項目	平均値
(1)意欲・熱意	1.0833	(9)ゼミ活動	2.6250
(2)性格や人柄	1.1250	(10)専門的知識	2.5000
(3)考え方や価値観	1.3750	(11)資格	3.1250
(4)礼儀・マナー	2.0000	(12)語学力・国際経験	3.0000
(5)健康・体力	1.7917	(13)大学の成績	3.0417
(6)一般常識・教養	1.9167	(14)出身大学	3.7500
(7)風貌・雰囲気	2.8750	(15)出身学部	3.7917
(8)部活動	2.6667	(16)推薦者	3.7083

企業等がもっとも重視するのは「意欲・熱意」であり、次いで「性格や人柄」であった。他にも「考え方や価値観」「健康・体力」など個人個人の持つ資質を企業等は採用に際し、重視するのがうかがえた。そして、大学における諸々の活動に対しては、「部活動」「ゼミ活動」が約3割、「大学の成績」が約2割の企業等が重視する（「まあ重視する」を含む）と回答したにとどまった。

「Ⅱ 卒業生アンケート」の**Q7**「就職・進学に際し相手方が重視したと思う事柄」では、多数の卒業生が、相手方が「神戸大学出身であること」を重視したと考えていた。

しかし、「出身大学」や「出身学部」は採用に際して、あまり重視しておらず、卒業生と企業等との意見の相違が見られた。ただし、**Q7**は就職の際だけではなく、進学の際についての回答も含んでいる。また、企業等に依頼したアンケートとは設問項目が異なっている。よって、今後、機会があれば、卒業生と企業等に対して同一の設問事項でのアンケート調査を行えば、より正確な比較ができるであろう。

以上、就職先アンケートの調査をみてきた。

「Ⅱ 卒業生アンケート」の**Q4**「授業に対する評価」**Q5**「学生生活に対する評価」において、半数以上の卒業生が就職・進学に関して本学部が授業面や有益な情報・人脈獲得に貢献したとは考えていない。そして、**Q11**「本学部に関今後期待すること」では多くの卒業生が就職・進学への取り組みを改善・充実させるべきだと感じている。そのためにも、今回のアンケート調査の結果をふまえた上での、これからの発達科学部における就職支援活動を展開していく必要がある。

IV 自由記述より

(採録にあたり、一部、修正等を施した箇所があることをお断りします。)

1993 (平成5) 年度入学生

(人間発達科学科)

施設や設備があまりに乏しく、就職資料室等4年生へのバックアップが皆無に等しかった。授業料も上がっている今、このような貧しい設備であれば私学の方が良いと感じられます。予算的な物もあると思いますが、学生にとって充実したハード、ソフトを希望します。先生方は良い(熱心な)方も多かった。年配であり内容のない講義をされる先生も一部見受けられた。

神戸大学在学中に小学校の免許をとり、現在小学校で勤務しているが、できれば在学中に中・高の免許もとりたいと思っていました。いろいろな免許がとれると、入学を希望する学生も増えるのではないかと思います。

学生時代の自律のなさを恥じていますが、現代学生気質(?)を考えると、もう少し丁寧に学問のガイダンスが欲しかったと思います。

発達科学部1期生です。学部名が新しいということで、説明するのに大変な思いを何度かしました。私自身はしたかった勉強ができ、良かったと感じていますが、胸はって“発達科学部卒です”と言えるよう、知名度が上がるようになるとなおいと思います。

神大は、大好きです。

私達の代は、発達科学部設立の初年度であり、どこもなく目指すものがぼやけていました。現在の動向を詳細には知りませんが、国立大ともなると、地域の専門機関と連携した研究が進むことを望みます。

ずいぶん進路や自分の生き方に悩んだ学生生活でしたが、その時間がとても有意義であったと思い感謝しています。ますますの発展を願っています。

(人間環境科学科)

より学科の目標に見合ったスタッフ、授業が必要。

PRが十分でないと思う(高校現場で仕事しているが)。

学部としてのウリ、特色をより明確に出せないと厳しい。「総合的に学べる」だけでは弱い。また学科間、コース間を結び、あるいは横断的に取り組むプロジェクト・授業がなければ単科学部(教育/自然・数学・生活・社会/芸・体)に勝るものは出てこないだろう。

1年次に討論やプレゼンテーションを学び、また環境（教育）をテーマに幅広く考える機会があると、多様な専門性・総合性が生かせると思う。

がんばってください。

地域住民参加型のイベントを行い、発達科学部について広く知って頂くことが重要であると感じます。

まだ、発達科学部ができて最初だったので、先生方も戸惑っているのが良くわかった。先生の中には、とても先見の目を持って環境関係の研究を行っておられたりして、興味をもてたが、そうでない方もいて、農学部や理学部の授業の方が刺激をうけた事が多かった。発達科学部（自然環境論）でしか、できないような、独自性を確立して行ってほしい。

研究職（いわゆる「ポスドク」など）に就いているものに対する配慮が設問に欠けていると思います（設問 14 など）。発達科学部は研究者の育成には力を入れていないことの表れでしょうか。専門基礎科目を学生にきちんと教える強い姿勢が必要だと思います。「幅広い」ことをタテにして内容の薄い基礎科目では、使いものになりません。外書講読をするくらいなら、英語でのプレゼンテーションやテクニカルライティングなどを鍛えることのできる授業をした方が役に立つと思います。レジュメだけで済ませる授業もやめ、テキスト指定のもとにレジュメを使用するようにすべきです（自学自習がうながされていない）。もっと課題も課すべき。関東の大学では、非常に丁寧に指導している大学もあります（私の勤め先）。

（人間行動・表現学科）

学際領域という理念を掲げていても、実際は教育学部時代の名残りが色濃く感じられた。もっと独自性をアピールすると共に、学生に学部理念をしっかりと伝達してほしい。実際、就活の際に、「発達科学部」について説明できない学生が多い。その点、大学院は、教育・研究とも充実していたと思う。

卒業校が益々、発展していくことを願っています。先生と学生達がひとつになって、授業が行われ、ゼミでは、より専門的で新しい研究にとりくんでいけるようであればよいと思います。学生の意識の問題と思うのですが。

私は現在毎日放送（MBS）美術部で、番組やイベントのアートディレクターやデザイナーを7年間やっておりますが、この度、神戸の実家へ引越す予定があり、将来的に地元への転職も視野に入れていきます。つきましては、私が卒業した本校の発達科学部、造形表現論コースで何らかのスタッフとしてお役にたてるような機会があれば是非ご紹介下さいますようお願いいたします。

1994（平成6）年度入学生

（人間発達科学科）

社会人入試で入学しましたが、もし、神大・発達科学部への入学希望者に入学について相談を受けたなら、正直、あまりすすめないと思います。学部・大学院をとおしても、学生が大切にされていないと感じました。

私が在学していたころは、まだまだ、学部として行き先が決まっていなような不安定な印象がありましたが、研究科もでき、また方向性が見えてきているような気が致します。ユニークで専門的な研究ができる学部であり続けて頂きたいです。

入学前より将来は開業助産師になることを目的としていました。本年4月出張専門ですが開業しました。近いうちに助産所を建てることを目標に今仕事をしています。このような状況です。神戸大学で学んだのは、この大きな目標達成のためのプロセスとして計画的なものでした。看護理論でも“発達”という視点から人を見る必要があり、発達科学部の授業内容にたいへん興味をもって入学しましたが、全ての授業が発達という視点でおこなわれているわけではなく、ちょっと残念でした。学部の名前通り「発達」をメインコンセプトに大学改革をしていただくと、たいへん特徴のあるユニークな大学となると思います。期待しています。

現場を調べるなどの授業がとても印象に残っています。でも、あまり現場に行かない授業が多くて疑問に感じました。福祉、生涯学習、障害者教育などもっと現場に出ていくべきです。

実習・活動の時間をふやしてほしい。

講義内容は教員になった今、再度受講すると役立つと思うが、学生の時によく分からないまま聞いていた。

失敗体験をさせる講義・実習があれば後に役立つと思う。

（人間環境科学科）

図書館や学食の開いている時間が短いと思います。

現在になって、もっと勉強をしっかりやっておけば良かったと思うことが多々あります。勉強をする・しないは、学生の雰囲気による所が大きいと思いますが、先生側がもっと勉強させるようにできればいいかとも思います。東京大学の学生と研究する機会がありましたが、やはりレベルの違いを感じました。大学での勉強量も差を感じました。もっとつめこむぐらい勉強させてはいかがでしょうか？

人間環境科学科（自然）を卒業し、自然科学研究科で学位をとった者です。「既製の学問の

枠を超えての環境問題への取り組み」という学部時代に培った信念を抱きつつ、「(自分野における) 真理の探究」という現在の研究のあり方から脱せず、今ひとつはがゆい思いをしています。いろいろな波もあると思いますが、はやりなどに惑わされず、「発達科学部」の理念を貫き、存続、発展していかれることを願っております。

太田ゼミでやっているような学外との交流をどんどんやって、学生のみなさんには、実社会とどんどんかかわってほしい。99年のベトナムの研修は、今でも印象に残っています。

「発達科学部」として10年を迎えられたこと、おめでとうございます。発達科学部は全国でも唯一のユニークな学部であると在学時より思っていました。私が入学した94年時点では、未だ教育学部色が強く、その延長であるという感じを受け、少しがっかりしたのも事実です。10年経った現在はどうかわかりませんが、今でも「紫陽会」から会報が来るところを見ると、それほどかわっていないのかと思います。発達科学部が全く新しい学部として成長していくには、以下の改革が必要と考えます。

1. 「紫陽会」から発達科学部同窓会を独立させる。
2. 教員免許取得のための授業を全廃する。

神大を代表するような学部目指してがんばって下さい。

独立行政法人化で大変かもしれませんが、大学⇌サービス業と割り切ってこのアンケート調査をまとめ、全国的に結果を告知して下さい。

学部の発足から10年とお聞きし、月日の経つのは早いものだと感じました。私は最初の就職活動で要領がよくつかめなかったこともあり、希望する分野の職業に就くことができませんでした。今は転職を経て充実した日々を送っていますがこれから社会に出ていく学生の皆様が、なるべく初めから適性に合う職業に就けるようサポートをして頂ければ幸いです。今後も学部と皆様の益々のご発展を期待しています。

全国的にも有名な、知名度の高い学部になるよう卒業生として期待しています！！

私は自然環境論コースに入学し、以前から関心のあった環境問題についての知識を学び、どのように改善していけるのかを研究したいと思っていた。しかし、実際には環境問題と結びつけるには無理のある講座が多く、入学前に抱いていたイメージとはかなり違った。「環境」という名前に対して学生の持つ期待と、現実の授業内容が一致していないのでは？どうしても「旧教育学部」を引きずっていたような気がする。(今はどうかわかりませんが…)

私自身は非常に有意義な4年間を過ごしました。他の学部や大学に比べ、講義やゼミに対する先生方の熱意、積極性が非常に有り難い程強く感じられました。今後ともイキイキとした学部づくりをよろしくお願い致します。

(人間行動・表現学科)

発達科学部は他の学校・学部では経験できない授業がたくさんある貴重な学部です。今後の益々の発展を期待しております。

だいたい卒業生が“会社”という組織に“就職”していることを前提にされている点であなた方の考えが古いと思います。

1995（平成7）年度入学生

(人間発達科学科)

「これ」という技術は身につかないものである。それが、本意なら専門学校の方がよほど良い。現に大学を卒業して専門学校へ改めて入学する（社会人を経て）人は多いと思う（発達科学部に限らないことだが）。部活をしていたので充実した大学生活だったが、もししていなかったら無味乾燥だった。ちなみに春から言語聴覚士を目指し専門学校へ入学します。

学部の発展のため、有意義な研究をされることと思います。研究結果について興味があります。結果のまとめはいただけるのでしょうか？

在学中、思ったのは、教員採用試験に対する大学側の働きかけが非常に少ないということです。もちろん、研究が大切なのは言うまでもないことですが、学生にとっては、就職も大切なことです。他大学では、2年・3年から、筆記から面接までセミナーを何度もしていると聞きました。塾や予備校的なものプラス子どもに関する、ボランティアの紹介等も、大切なことではないでしょうか？神戸大学で教職をとる意義は、他の単科大や教育大にくらべ、自分とは違う専攻・専門の方と知り合えることだと思っています。先生という職に一旦つくと、付き合う人の大部分が、先生・子ども・保護者です。保護者と付き合う時に、先生しか知らない人間と、少しでも他の職種のことを知っている人間とでは、理解の深まりも違うと思います。

就職支援の充実を求めます。

発達科学部の募集要項と実際の授業内容、教授陣の研究内容がとてもかけはなれていたように思いました。期待した割に内容は乏しかったように思う。

在学中に、多くの成人の社会人入試枠で入られた方々と交遊できたことは、教育に熱心な先生方との出会いとともに、大きな刺激だったと思い返します。今後も成人あるいは社会人学生にとっても、ともに学びやすい環境を期待しています。在学中の学びは、今も私にとっての原点です。

発達科学部で過ごした4年間は楽しかったと思う。けれど何を学び、何を身につけたかと問われると答えられない。全て自分が悪いのではあるが…。

図書室の整備と管理について、なんとかなりませんか？図書室の本が、「床に平積み」ってひどいでしょ！？アンケートの主旨と関係なさそうですが…。

教員になるために入学し、無事なることができて早3年目。今とても充実した日々を過ごしております。神戸大学・大学院では、様々な分野の先生方と交流することができ、とても刺激の多かった毎日でした。ただ、私は社会人を経ての学生でしたので経済的に余裕がなく、興味・関心をいただいたことにじっくり取り組む時間的なゆとりがなかったことはとても残念でした。現在でも日々多忙な中で、なかなか余裕がなく歯がゆい思いがあります。神戸大に入学する学生は教員志望者が少なく、東京に戻った私の周囲には神大出身者は皆無です。とてもいろいろな教養が身につけられ、知的刺激も多い神大ですので、もっと教員養成に力を入れてもいいのではないかと思います。勝手なこと言いましたが…。

お疲れ様です。発達科学部の取組みが、社会に貢献できるものとなるよう、期待、応援しています。また、学生さんたちが最大限力を発揮できるよう、実社会で役立つよう教育体系の更なる向上を望んでおります。

(人間環境科学科)

新設された頃に比べて、学部内の内容も充実し、スタッフもその後最初の旧学部のスタッフの退官等で変化していることでしょうか。学生の気質も時代に沿って変化している、それらの変化が発達していることを願っています。

卒業後の進路について、特に就職面においては発達科学部出身ということはあまり役立ってなかったかと思えます。研究職として理学部より弱く、文系就職するには元が教育学部という点が、“社会では規範を重視しすぎる”、“理想に対する主張が強すぎて、その場所での状況に合わせられない”と受けとられる風潮もあるように思われます。発達科学部で幅広く、学際分野を研究していることの、もっと具体的なアピールが必要です。研究していることが、「今」どこでどのように役立つのか、もしくはベンチャー企業を立ち上げる意識をもたせるとか、より社会状況に密着した発想が、大学側にも学生側にも必要です。

ぜひ発達科学部の“らしさ”の追求を、続けていってください。

社会に出て思うことは、大学在学中あるいはそれ以前の小・中・高の学生時代において、世の中にいかに多くの職業が存在するか知る機会が少なすぎた、ということです。大学を学問・研究機関と考えれば、余計な話、的はずれかもしれませんが、多くの人が仕事に就く直前の4年間を過ごす大学時代にもう少し情報に触れられていたら、職業選択への不満や不安を抱えながら、自信のないままに働く同世代が減っていたのでは？と思えます。

外の世界からあまりに隔たっていると学生時代から少し感じていたが、社会人になり、転職や留学を考えるようになって改めて感じている。目指すべき1つのモデルは関西学院大総合政策学部であると思う。一流国立大が私学をモデルに、と言われてもprideがゆるさ

ない方も多いと思うが、他大学の同系学部が、どんな学生とどのように確保しようとし、内容を充実させようととりくんでいるか、改めて見直す必要があるのでは。卒業生であることの自信、愛校心を米国学生並みのものにしたい。

以下の項目が必要だと思います。より環境に力を入れた学習プログラムの整備。産学も重要だが、体験学習、実習をより充実させる。ディベート能力を高める授業の必要性。就職に関する情報の提供（OBによる講演会、資格試験対策など）。知識の定着を助ける授業形態の確立（授業内容の小テスト毎回実施など）。

授業に関しては、本当に様々な内容のものがああり、教員免許取得のためもあって数多く受けていたので、「全般的」な印象をきかれても答えにくかったです。

在学中に専門的な勉強をもっとしていればよかったと思う。

環境に対する専門的かつ具体的なアプローチが欲しい（私は自然環境論コースでした）。

就職に関してのサポートが弱すぎると思います。いろいろ他の人の話を聞くと、国立大学であること、元教育学部で、就職活動（対一般企業）に元々熱心ではなかったことが原因のように感じました。発達科学部ができて10年だそうですが、教員養成学部でもなく一般学部にもなりきれていない中途半端な学部になっていることは否めないと思います。どんなことでもいいので、早く個性のある学部として認知されることを期待しています。知名度を上げることが、就職活動が楽になる近道と思います。

（人間行動・表現学科）

在学中は大変お世話になりました。ただ学術面に関して、卒業して後悔することがたくさんあります。それは“もっと深く追求して勉強したかった”ということです。実技面に関しても、広く浅く“習得”したレベルに終始してしまい、今思うことは、もっと深く専門レベルまで追求するべきであったという事です。専門分野を確立できなかった事がとても残念に思っています。そういう意味では、少し不完全燃焼気味な学生生活でしたが、サークル活動や仲間に出会えて、とても充実した学生生活でした。

対外的に学会などに参加するなどの機会を増やしてほしい。

教員養成科と専門分野？

私が在学していた頃はまだ立上げから間もない時期で、震災などもあり、色々と学部について思うところがありましたが、現在はおそらく改善されていることと思います。神戸大学の名に恥じない学部へと、更に飛躍されることを望みます。就職に関しては他大学・他学部と比較しても、全く直接お世話になった記憶が無く、同級生も皆苦戦していたように思いますので、改善されていることを望みます。

1996（平成8）年度入学生

（人間発達科学科）

（専攻やコースによって状況は異なると思いますが…）研究意欲を持った教官に活躍していただきたいと思います。根本的な人間性にまでこだわるといっていいかもしれませんが、研究者、教育者として、学生に対し恥ずかしくない姿を見せていただきたいです。ひどい方もいらっしゃいましたので。

社会人が受講できるような短期間のゼミや公開講座があるとよいと思います。

学部発足から間もなく明瞭な学部像・研究実態がはっきり外部に知らされていない過渡期にちょうど入学したのでしょう。なので実際入学してからも、「期待はずれ」などは思いませんでした。当時の教育システムでも学生の意志次第で、多すぎるほど学ぶこともできれば、ただ漫然と多くを得られずに通り過ぎることも可能だったように思います。大学側として学生の質を安定させ、相互に納得のいく4（+α）年とするためには、やはり更なる情報発信、情報公開をし、その中で入学者に自覚を促したらよいのかな、と思っています。10周年を機に、様々な研究の成果を積み重ね、発達科学部という学部像がはっきり現れてくることを卒業生としても楽しみにしております。

現在他大学の事務官として働いています。学生時代に学んだことは直接役に立ってはいないかもしれませんが、物事の見方やとらえ方などにおいて役立っている気がします。就職に有利な学部とは言えませんが、人間的に良い先生や友人に出会える学部だったと思います。今後より一層発展されることを期待しています。

今後の発達科学部の発展を心よりお祈り申し上げます。

「発達科学部」というハイカラな名称に変わり、入学希望者は増加しているかもしれない（私もそのクチです）が、就職の場面では「何を学んだのか？」がわかりづらい名称であると痛感した。個人がよほど強く「これを学んだ」「これがやりたい」と主張しなければ就職は厳しい。また今だに“神戸大学だから”という人事課が少なくないことも実感した。「卒業生はこうあるべき」というコンセプトをかかげるならサポートが必要だと思います。

児童心理学が学びたくて、神大の発達科学部を受験、入学しましたが、2年生からのコース分けで、希望のコースに入れず、思い描いたものとはかなり異なる専攻となってしまいました。学生の希望が受け入れられないコース分けのあり方について、大変疑問を感じました。これから、夢をふくらませて発達科学部に入学してくる学生たちのために、コース分けの方法、コース定員について、再検討して頂きたいと思います。

教員としてやっていくなれば、教育大が圧倒的に有利（学習内容、人脈 etc）だと痛感している。しかし、大学生活で得た経験は、私個人の（教員としてだけでない）素晴らしい財産

であると感謝している。

福祉系の大学・学部のように、福祉施設への実習をカリキュラムに取り入れるのも、人間理解を深める上で有効だと思います。眠りかけながら講義を受けるよりも、実地での学びは大きく刺激的です。

目に見える実際的な貢献・つながりを地域ともてる大学であつたらよいのにとおもいます。私の勤める児童養護施設では被虐待児が8割を占め、戦後から変わらぬ人員配置・設備の中で、職員は彼らの問題行動の対応に追われ悲鳴をあげています。行政の方も児相のCWの人員不足で、不十分すぎる対応に留まっています。大学もこの問題と一緒に取組んでくれたらと思う（施設のスーパーバイズ、親子の心理治療、職員のメンタルヘルスなど…）。

個人的に就職という目標ができてから、発達科学部で学んでいること、学んできたことの重要性や、その特色（のプラス面）が見えてきた気がします。本来、順序が逆だとは思いますが、進学や就職に関する多くの情報を早めに知りたかったという気持ちがあります。

私としては、色々なことが学べて良い経験になったと思っています。他学科の授業がもう少し参加しやすければ良いと思います。

（人間環境科学科）

社会への人材育成という点などにおいて、大学での教育をもう少し実社会との接点を持った内容に切り換えていく必要があると思う。

私が発達科学部で一番よかったと思うところは、学習環境が整っているところで、特に3回生からのゼミでは、少数の生徒で先生につくことができ、直接近いところで学べたことが今でも自慢のひとつです。ただ、せつかくこんなに環境がととのっているのに、一般社会での「発達科学部」の知名度が非常に低いことが本当に残念です。「発達科学部？あー知ってるよ！」と言われるような地位を確立してもらえたら卒業生としてとてもうれしいです。

この学部の特徴の一つに「多様性」があると思うのですが、その点への取り組み方が弱い気がします。もったいないと思います。特に卒業生を財産と考え、そのつながりを継続していければ、お互いに刺激を与えあえる様な良い関係を築いていけるはずだと思います。個人的には、研究室、ゼミ等で接してきた先生方とのつながりが貴重であると感じており、定期的に連絡できる環境があればいいのにとおもいます。

発達科学部は本当によく理解しないと何をやっている学部なのかわかってもらえないことが多いと思います。幅が広いのはいいことだと思いますがひとつひとつの学問領域が複合しているとは思えません。教授同士が専門領域を広げる、すりあわせることで新しい先進

的な学問ができるのではないのでしょうか？

「文系」の入試を経て、「理系」のコースを選択できた事は趣味、教養という面ではとても有意義であったが、就職に際しては「半端」という印象を持たれやすいように思う。うまくアピールできるような就職支援にも期待します。

OBのバックアップが研究、教育、就職上今後重要になってくる。そのためには、OBがゼミ、中間発表等で気軽に研究室に出入りできる環境が必要（教官が退職した際の後、なるべく同じ分野の新任教官）。

他学部における同分野研究室、講座との連携を強化（発達科学部がいくら学際的でも学部内でカラにとじこもってはいは意味がない）。

（人間行動・表現学科）

造形表現論のアトリエの充実（採光・環境・石コウの数）。

大学の授業レベルが低かったように思う。また、就職に関する情報がほとんど入ってこず、就職活動の仕方がわからず困ったので、そういう面を少しでも改善して欲しい。

1997（平成9）年度入学生

（人間発達科学科）

今後とも神大の中心的な特色のある学部であってほしい。

今後発達科学部は学内編成を行うとうかがっています。後進育成に役立つようなハード面・ソフト面の充実がなされることを願っています（他学部に関連分野との連ケイも含めて）。あと、学部・学科名をもう少し簡略化していただくと履歴書記入などの際、大変助かるのですが（変更になっても私には無関係ですが）。

各先生方が生徒のニーズを考慮した授業をし、生徒一人一人の学習動機を高めるような授業を増やすべきだと思います。講義形式の授業が多すぎると思います。

総合的な学問を修められることが発達科学部の魅力だと思います。私自身そのおかげで、柔軟な考え方を身に付けられたと感じています。しかしその一方で、専門的な知識を得るまでには至らなかった気がしますので、専門性と幅広い知識や人間としての成長のバランスをどう扱っていくかが、今後問われてくるのではないのでしょうか。

教職について3年目ですが、大学（特に免許をとる課程）でもっと直接的に役立つ内容がほしかったです。他の教員養成系大学と違うのはわかりますが、かえって発達科学部卒＝何もできないとなってしまう。実際に授業を作る、学級の係を考えるなどの理論でない実践（理論→実践でなく理論←実践）が現場では必要です。学外で学んだことの方が今

大きいです。教員（特に小学校）経験者のスタッフがほしい（ほしかった？）です。

教育実習やゼミはとても役に立ちましたが、講義も、もっとわかりやすく教員として為になるものであったら、もっとよかったと思います。教育大のカリキュラムに比べて、実践的なものは少なく感じます。遅くなり申し訳ありません。

発達科学部で学んだことは、就職してから「これ、教えていただいたなー。」と思うことばかりで大変役に立っています。学んでいる時は、分からない（どこで役立つのか）ものです。教授の先生方には大変感謝しております。幅を広げながらも、教師になる後輩がたくさんでるとよいなと思っています。発達科学部の益々の御発展を祈っております。

恩師の教官の先生方には是非、又お目にかかりたいです。お会いできるチャンス・交流会（さまざまな分野の方と）ゼミの同窓会などがあればうれしく思います。

今後、より質の高い教育を受けられる学部になってほしい。

視覚障害（全盲）を持ちながらの学生生活。当大学には試行錯誤して頂き、ずい分お世話になり、大変感謝致しております。充実した学生生活を送ることが出来、現在に至っております。発達科学で学んだ事をうれしく思っております（代筆）。

発達科学部は、学科・コースが多彩で、様々な学生が集まってきており、又、それらの学科・コースの授業（自分の専攻とは、かなり異なった内容の授業）が、同じ学部でうけられるという所が、とても良かった。「文学部」「理学部」など、一般の学部とは違い、そういう点が、発達科学部は、すばらしい！学生は、この特徴を大いに利用し、新しい興味・関心を喚起させ視野を広げて行って欲しい。発達科学部の卒業生が、社会で、どんどん活躍していってくれることを期待しています。

（人間環境科学科）

今から振り返っても、発達科学部に入学して良かったと思います。さらなる学部の発展のため、一卒業生として協力できることがあればと思います。

卒業して感じることは、学際的な学部であることは専門性が身につくというよりは浅く広い教養を得ることが主になるため、率直に言って就職活動に役立つことはあまりない。しかし、専門性を得たいのであれば専門学校という選択肢もあり、大学という場所が幅広い教養を身につける場でもある以上、発達科学部の存在意義は十分にあると思う。ただ、私自身の反省点でもあるが、単位取得に対してもう少し厳しくしないと勉強しない学生がますます増えると思う。同時に、教員も、今後ますます重要になってくる“環境問題”をせっかくテーマとした学部であるので、より現代社会に直結した話も交えるなど授業、カリキュラム等工夫が必要だと感じる。今後の学部の発展を願っております。

こういったアンケートにより、今後の大学及び学部の発展につなげていこうとされる姿勢はとても良いと思います。ただ、専用の封筒や案内文などを作るお金はもったいない。このお金を他の研究費や施設にまわすべきだと思います。

私が入学した当時、「環境問題」が注目されていた時期であり、この学科でどのような多様なアプローチ・実践ができるか期待したがほとんどなかった。結局その時あった専攻に自分を適応させるしかなかった。また、これは大学全体で言えるが、大学の授業に期待されるのは、学生の興味や学習（研究）意欲を刺激、発展をさせ、学生自身の手で何らかの成果物をつくり出せるようにすることだと思うが、実際は退屈であり、自分のやりたいこととは程遠いものであり、先生の教え方が下手でありという状況で、入学後2～3ヵ月ではほとんどの学生がやる気や大学への期待をなくしている。それで遊ぶことにはしてしまうのです。あと社会環境論コースに足りないのは、「基本・応用・発展」のうち「基本・応用」の授業が極端に不足していることだ。当時、どうして良いか分からない学生が多かった。その状態でゼミに行ったら、余計に分かりにくく、勉強離れが進んでいたように思う。私のゼミの先生は優秀で助かりましたけど。

現在の改善の程度は存じ上げませんが、私の在学中の就学体制はかなり不満足なものでした。非常に致命的な事ですが、学科・コースの理念や教育方針を教官が理解していない、コンセンサスがとれていない、そして学科理念+教育方針を満たす授業がない、といった問題を痛烈に感じた日々をすごしました。要するに教育学部と何ら変わっていない、という事です。教育方針とその学問領域をしっかり満たした授業を整備し、コンセプトに対する個々の授業内容の位置づけしっかりとおこない、必須授業などに縛られずに自由に個々人の目標とする学問、技術、知識を習得できる環境を整えて頂ければと思います。

自然環境論コースは現代社会におけるニーズに全く対応できない教育体制であり、教育効果も皆無に等しい。私は他大学院に進学したが、私の同級生も教員からのイジメにあって、他大学院に逃げた者は数多くいる。教育の質の悪さもさることながら、教員の質の低さも特記に値する。ほとんど全ての学生は、環境科学を学ぶ為に入学したにもかかわらず、環境科学の研究・教育が行われていない現実に失望している。

発達科学部へ入学する学生は、幅広い知識と教養+自分の核となる専門性を習得したいと考えている人が多いと思います。また、入学時点ではその専門分野を明確に持っていない人もいます。先生方はご自身の研究、専門を示すだけでなく、この学部で何ができるのか、様々な可能性を学生に紹介していただきたいです。発達科学部にはこれという道がないところが特長だと思います。それを活かすには、学生のやる気と先生の熱意が不可欠です。でなければ、中途半端で他学部との差をアピールできなくなります。今後の発達科学部の発展を期待しています。

結果や、そのアンケート結果をどう活かしていくのか、といったコトが知りたいです。

同職の方々との交流会なんかを開催して欲しいです。

学際的な知識を得ることはできた。ただし、興味を持った分野について知識を深めることが困難だった。私個人は、3、4回生で工学部の単位をいくつか取得したが、他学部の授業の情報は個人的な人脈頼りで入手するしかなく、発達科学部としてサポートが欲しかった(学際的であるために、全ての分野を手厚くすることが困難ならサポートでカバーを!)。また、他学部の単位が「その他」にしか分類されず、各種資格を取得する際に、同種の試験科目が免除にならない。他学部と協力し、発達科学部外の単位も専門の単位扱いにしないと非常に不都合だ。

学生の自由な気質を大切に、今後も発展されることを期待しております。

環境科について 分析機器等が貧弱。また図書館も古い本は多いが新しい本は少ない。総合的知見を広げることを目的とするならば、人材の育成とともに設備の充実も必要。出張研究をしている研究室が多い。また、研究室どうしの情報交換が少ない。環境問題に取り組むなら、もっと連携したほうが学習には効果的。

(人間行動・表現学科)

返送が遅れ申し訳ありません。本人は現在オーストラリア滞在中(勉学を?兼ね周遊中)です。帰国が遅れる様で、上記回答できませんが、推察するに御学部が第一志望(前期不合格、後期合格を頂く)でしたから、喜びも大きく、内定の私学には行かず、神大にお世話になった次第です。従いまして、4年間の大学生活は公私共に楽しい充実した生活を送った様に思います。ただ、親としては本人の努力不足が大ですが、就職難の時代、なかなか就職できず、音楽関係の東芝EMIに応募したようですが、最終面接で不採用となった様です。経営学部の様な有名学部ではなく、職人的なものがある学部ですから、全般的に就職は難しいのかもしれませんが、詳しいことは判りかねますが、大学として就職に対する支援・フォロー等余りないのでしょうか?(国立は皆同様?)一寸残念な気がします。つたないことを記入しましたが、最後に御学部の益々の発展を、お祈り申し上げます。以上、父親代

今後もどんどん発達して改善されていくことを願っています。

結果を公表して頂きたい。

私は音楽科という閉い世界にいましたので発達科学部全体について展開できる意見であるかはわかりませんが、「専門」というテーマで発達科学部をもっとクールな学部にしてほしい。

発達科学部は学問的には浅く、本質的な部分を学ぶ事ができなかった。しかし、広く浅く見渡す中で、自分が本当にやりたい分野を見つける事ができたので、他学部へ進学を決める事ができた。発達科学部は今でも、自分の中で土台となる部分を築き上げてくれた場所

であったと思っている。これから先、発達科学部が方向転換される事が決まった時は、ご報告頂きたいと思います。

他学部や他学科との共通の講座や、交流のできる授業がもっと増えてもよいと思う。それから、せっかく「発達科学部」として3つの学科（現時点で）が一緒になっているのだから、この学科の垣根をこえた研究や演習を行っていけるような体制にすると良いのではないかと思います。学科やコース同士の交流しかないのはもったいない。あと、就職のバックアップをもう少しすべきではないかと思った。

1998（平成10）年度入学生

（人間発達科学科）

入学後のコース分けのやり方は考えた方がいいと思います。

これから会社で必要とされる人材、会社に入ってから長続きするために必要なものはその人のオリジナリティや専門技術・知識だと思う。神戸大学というだけでは採用されない、自由な校風を活かして、個人の興味・関心を深く学習できるような授業をしてほしい（何かを好きという気持ちを伸ばして）。就職活動の時に自分探しをし始めても遅い。

現在私は金融関係の仕事に就いており、発達科学部で学んだ事とは直接関わりのない仕事をしています。しかし、発達科学部での学生生活は充実したものであり、授業内容も興味深いものが多かったと思います。これからも一層、充実した授業が受けられる学部であって欲しいと思います。

特徴的であるはずの学部の研究活動など、目的をもっと社会にはっきり打ち出して欲しい（「どういう所なんですか？」と聞かれる）。

学生の就職に対して、もっと積極的に援助、情報面のサービスをして欲しい。

特色のある授業を工夫して欲しい。講義ばかりでなく、体験したり、作ったり、実験する授業が人間発達科学科にも欲しいです。

就職指導室は改善した方がよいと思う。場所も目立たないし、パソコンが古すぎる（使いにくいので今の学生は敬遠していると思う）。だから利用者があんまりいないのではないだろうか。就職情報も、学校推薦を受けつける企業（ほとんどないけど）とそうでない企業とを、分けた方が学生にとっては便利かもしれない。

休講が多すぎる。

設備、授業、実習現場の紹介等私大と比べるとかなり見劣りする。安だけのことはある

というかんじ。入学前は、私大は授業料が高いとの悪いイメージがあったが、入学後比較してみても、私大は授業料分のリターンがあるのではと思うようになった。

多くの米大学の授業のように、予めシラバスに細かく予定、課題を示し、それを実行する授業が増えることを期待します（シラバス通りでない授業が多い！）。

図書館を土曜日も開館して欲しい。

色々なコースがあるため、多様な授業が取れて勉強になった（日本古典芸能など）。

本アンケートのフィードバックはどのようにチェックできるのでしょうか。

ホームページの掲示板などを充実し、もっと在学生や卒業生と意見の交流ができるようになると思います。

教育学部から改編されたとは言え、教員免許を取ろうとすれば教育学部の頃と変わらないのではないかと思われるカリキュラムであり、教授の中にも、免許を取ることに主眼を置くべきなのか迷いを持たれている方がおられたように思いました。教員養成を重点に考えるなら、もっと現場と学生の交流を深めなければ、せっかく附属校があっても学生には遠い存在になっています。教育学部・教育大学とどこが違う、どんな特色があるのか、内部（カリキュラム）に工夫して欲しい。

学生の「居場所」を大切にしていってほしいと思います。ゼミに配属される前の時期にも、集まって話したり勉強したり調べたりできる「場所」があれば、「学部」と「発達の学生」はもっとつながることができるのではないのでしょうか。

アンケートについて 入学時のことは、卒業してからはあまり正確に思い出せませんでした。4について、しっかり覚えている授業は何かしら印象に残るものがあったはずで、授業全般について「多かった」か「少なかった」かを回答するのはむずかしかったです。〈集計ごころうさまです。がんばってください〉

食堂が早く閉まりすぎ。

土曜も図書館を利用させてほしい。

学生の就職に関して、学校側はあまりに非協力的。

入学前に独自で得た知識・情報より、実際はすごく教員免許がとりにくいと感じました。免許が取れる科目や種類が学科にとらわれず、発達科学部に入学すればもう少し取得しやすい方がよいと思います。

私は現在営業組織のアウトソーシングをすすめる部門で営業をしております。現在の仕事では、企業の生産性を向上させるためにいかに「外部の力を借りるのか」ということを啓蒙することが多く非常に意義のある業務についていると感じています。

発達科学部であり、教育、学校教育、教師育成よりも幅広く、様々な事を行い、挑戦していることをもっとアピールしてよいと思う。何をしているのか理解しづらい。

就職サポートがあまりにも少なすぎる。卒業生をもっと活用すべきだと思う。

独立行政法人になると、もっと周囲の理解を得る事や経営センスが必要になると思います。大好きな発達科学部が生き生きとした存在であってほしいです。がんばって下さい！（+卒業生の活用を！）

（人間環境科学科）

今後のさらなる発展を祈っております。

よりよい学部を目指して頑張ってください！

改めて、このアンケートで自分の学生生活を振り返ることができました。4年間自分が何か努力して、熱意を持って、自ら取り組んで得たものがなかったことが非常に残念です。与えられるものだけに甘んじていたかと思いました。（主体的な学生も多いですが）更にそういう学生が増えることを希望します。

もっと明確な専門知識を身に付けることのできるシステムを作ってください。このアンケートを活かし、有能な人材を構築して下さい。期待しております。

環境問題に関心があり発達科学部人間環境科学科を専攻したが、一般的な基礎科学の講義が多かったため、もっと環境と結びつけた講義形態の方が良かった。

将来についても、大学院への進学以外に環境関連の就職先にどういったものがあるかといった進路説明会等があった方が良かった。

発達科学部の教育を充実させ、優秀な後輩が生まれることを期待しております。

発達で良かったと思うことは、先ず社会人入学者の存在だと思う。彼らの熱心な姿勢は励みになったし、自分が社会人になった後も、自分の意志で（大学入学とは関係なくても）学ぶことはできるのだと知ることができ、大変有意義だと感じる。また、カリキュラムや学部の方向性が固まり切っていないことも、不便はあれど、変化する社会に対する柔軟性を持つものとして魅力的である。専門的な技術を得た実感はないが、どんな仕事に就いた

としても何かしら思い出す授業や学生生活であったように思う。

(人間行動・表現学科)

就職にもっと積極的な支援が必要と思う。私学は徹底的に大学のバックアップがある。独立法人化によって大学名だけでは通用しない時代に入っています。先生方もその辺を認識し、学生に対する支援をご検討下さい。

他大学、国際的な共同研究・交流があればもっと視野が広がると思います。アートマネジメントの分野の授業・専門の先生がいたらよかったです。

1999 (平成11) 年度入学生

(人間発達科学科)

とても楽しい大学生活をありがとうございました。先生方はとても素晴らしい方ばかりです。その分、専門的な授業数をもっともっと増やして頂き、受講したかったです。それが一番の望みです。あと、図書館の本(専門の)をもっとおいてほしかったです。

他学部のように、きれいで現代的な校舎にしてほしい。

教務のスタッフの対応も悪い。

図書館に文献が少なすぎる。

現在、発達科学部で研究生をしています。私費で図書館(発達科学部内の)へ文献複写依頼を行おうとした際、手続面の問題で断られました。他学部では可能なものが認められないのは研究上不便であり改善を要求したいです。

成人学習論に入り、今の指導教官に出会えた。1, 2年生の前半マデ、自分が発達科学部、大学に来たことに後悔していました。設備は悪い、学舎は離れている、“キャンパスライフ”などない、学生へのサービスも不十分、(今でも)非常に残念に思います。神戸大学、大学院(特に総合人間科学研究科)の学生が学術的にも、社会的にも、もっともっと第一線で活躍できる日を願っています。

教員になりたい人が一人でも多くなれる様、比較的採用人数の多い首都圏の情報を提供すべきだと思う。

事務室のサービスを向上して頂きたいです。中には親切な方もいらっしゃいますが、目の前にある書類を後でとりにきて下さいとって渡してくれなかったり面倒くさそうに対応されたことがたびたびありました。研究関係に関しては、私は環境の整ったところに在籍していたので満足ですが、その他の研究室はそう思えなかったので、全般的に向上した方がよいと思います。教官の指導頻度や新しい研究への取り組みを増やすなどしなければ学

生は離れていくように思います。

(人間環境科学科)

同一学部でも履修について、制約があり希望どおり受講できない場合がある。改善点として集中講義を増やすなども考えていただけたら、と思う。

このようなアンケートを実施することは、今後の発達科学部の発展のための大きな一歩となると思います。アンケート結果を生かして、より魅力的な発達科学部になることを期待しています。学生時代、学部のカリキュラムや学生へのサービスに対しての不満は強かったのですが、やはり“発達でよかった”という思いはあります。今になって反省するのは、学部や大学の与えるものを待っていて、自分から積極的に柔軟性をもって動けなかったこと。大学や学部が変わらなければならないのはもちろんですが、学生側ももっと自主的に取り組む姿勢が大事ですよ。後輩たちのがんばりにも期待したいところです。

(人間行動・表現学科)

大学は自分自身で勉強する所ではあるが、もっと、教授（先生）が真剣になって教えていただいても、いいのではないかと思う事が多々あった。

卒業生の活躍をもっと身近に感じ、将来を考える機会を与えてもらいたかった。

入学年度・学科 不明分

もっと平らで広いキャンパスがいいのでは？

学部としての存在意義を感じない。

今後の教育面、スタッフ、図書館、施設等の拡充を特に期待します。今の（以前の）ままだと、学生もスタッフもかわいそうに思うのですが…。せっかくの頭脳を十分に発揮できる場を作ってあげてください。

付録（１）卒業生アンケート

1 あなたは発達科学部に入学する時、本学部への進学をどの程度希望していましたか。もっともあてはまるものに○をつけてください。

- ① たいへん希望していた ② 希望していた ③ どちらともいえない
 ④ あまり希望していなかった ⑤ まったく希望していなかった

2 あなたが発達科学部に入学した時、本学部での学習や学生生活にどのようなことを期待していましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ① 専門的な知識を得ること ② 専門的な技術・技能を獲得すること
 ③ 幅広い知識・教養を得ること ④ 社会的視野や経験を広げること
 ⑤ 将来について考える時間や契機を得ること ⑥ 人間的に成長すること
 ⑦ 部・サークル活動（全学も含む）に参加すること ⑧ 友人を得ること
 ⑨ 就職に有益な情報や人脈を得ること ⑩ 大学の先生と交流すること
 ⑪ 大学院などへの進学に有益な情報や人脈を得ること ⑫ 趣味を追求すること
 ⑬ 資格・免許を取得すること ⑭ その他()

3 あなたにとって、本学部での授業や学生生活は満足 of いくものでしたか。それぞれもっともあてはまるものに○をつけてください。

(1) 教育面(講義、演習、ゼミ、研究など)

- ① たいへん満足できた ② だいたい満足できた ③ どちらともいえない
 ④ あまり満足できなかった ⑤ まったく満足できなかった

(2) 学生生活全般

- ① たいへん満足できた ② だいたい満足できた ③ どちらともいえない
 ④ あまり満足できなかった ⑤ まったく満足できなかった

4 本学部で受けた授業全般について、次のようなことに対してあなたはどのように思いますか。もっともあてはまるものを1~5から選び、番号に○をつけてください。

	非常に多かった	多かった	どちらともいえない	少なかった	ほとんどなかった
(1) 専門的に深みのある授業	1	2	3	4	5
(2) 幅広い学際を感じることができる授業	1	2	3	4	5
(3) 人間・発達への興味・関心が深まる授業	1	2	3	4	5
(4) 社会・環境への興味・関心が深まる授業	1	2	3	4	5
(5) 身体・芸術への興味・関心が深まる授業	1	2	3	4	5
(6) 新たな興味・関心が喚起される授業	1	2	3	4	5
(7) 学習意欲が喚起される授業	1	2	3	4	5
(8) 新しい学問領域を開拓する意欲が喚起される授業	1	2	3	4	5
(9) 他学部にはない特色ある授業	1	2	3	4	5
(10) 他専攻の学生にも学問的刺激を与える授業	1	2	3	4	5
(11) 就職・進学に役立つ授業	1	2	3	4	5
(12) 仕事・研究に役立つ授業	1	2	3	4	5
(13) 先生の熱意が感じられる授業	1	2	3	4	5
(14) 内容がよくわかる授業	1	2	3	4	5

5 本学部での学生生活について、次のようなことに対してあなたはどのように思いますか。
 もっともあてはまるものを1～5から選び、番号に○をつけてください。

	非常に思う	思う	どちらともいえない	あまり思わない	まったく思わない
(1) 社会的視野を広げることができた	1	2	3	4	5
(2) 将来の目標を見つけることができた	1	2	3	4	5
(3) 人間的に成長できた	1	2	3	4	5
(4) 充実した部・サークル活動(全学も含む)ができた	1	2	3	4	5
(5) よい友人を得られた	1	2	3	4	5
(6) 就職・進学に有益な情報や人脈を得ることができた	1	2	3	4	5
(7) 大学の先生と交流を深めることができた	1	2	3	4	5
(8) 専攻の異なる人と交流する機会があった	1	2	3	4	5
(9) 柔軟な考え方ができるようになった	1	2	3	4	5
(10) 国際的な視野を持つようになった	1	2	3	4	5

6 本学部であなたが専攻した内容と現在のあなたの仕事や研究はどの程度関係があると考えますか。
 もっともあてはまるものに○をつけてください。

- ① たいへん関係がある ② 少し関係がある ③ どちらともいえない
 ④ あまり関係ない ⑤ まったく関係がない

7 あなたが、本学部卒業後最初の就職や進学に際して、次のようなことを相手方は、どの程度重視したと思いますか。もっともあてはまるものを1～5から選び、番号に○をつけてください。

	非常に思う	思う	どちらともいえない	あまり思わない	まったく思わない
(1) 大学での成績	1	2	3	4	5
(2) 大学での専攻	1	2	3	4	5
(3) 神戸大学出身であること	1	2	3	4	5
(4) 発達科学部出身であること	1	2	3	4	5
(5) 所属したゼミ	1	2	3	4	5
(6) 大学で得た専門知識・技術	1	2	3	4	5
(7) 大学で得た知識や教養	1	2	3	4	5
(8) 部・サークル活動(全学も含む)での活動や人脈	1	2	3	4	5
(9) 大学で培われた広い視野や柔軟な考え方	1	2	3	4	5
(10) 大学以外での学習経験	1	2	3	4	5

12 あなたは、現在あるいは将来において、総合人間科学研究科(大学院)で学習や研究をしたいと考えますか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

- ① 思っている ② わからない ③ 思わない
④ 同研究科を修了した、もしくは、在学中である

13 あなたは、本学部を卒業後これまでに転職の経験をお持ちですか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

- ① ない ② 1度ある ③ 2度ある ④ 3度ある ⑤ 4度以上ある

14 あなたの現在の仕事についてお聞きします。あなたは、現在何かお仕事をしていますか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

- ① 常勤(自営も含む) ② パート・アルバイト
③ 大学・大学院(専門学校等も含む)に在学中 ④ とくに働いていない

①、②と回答された人にお聞きします。

(1)現在の仕事に就かれて何年ですか。(年)

(2)現在の仕事は主にどのような業種ですか。

- ア 教員
イ 公務員(教員以外)
ウ 一般企業・自営 (以下のうちもつともあてはまるものに○をしてください)
① 製造業 ② 建設業 ③ 商社・卸売業 ④ 金融・保険業
⑤ 小売業・飲食業(デパート、スーパー、外食) ⑥ 不動産業
⑦ 運輸・通信・電気・ガス業 ⑧ マスコミ・出版・広告
⑨ ソフトウェア・情報処理 ⑩ 教育産業(塾など) ⑪ その他サービス業
⑫ その他()

ウと回答された人にお聞きします。現在のあなたの主な職種は何ですか。

- ① 企画 ② 経理・財務 ③ 広報・宣伝 ④ 総務関係
⑤ 人事・教育 ⑥ 国際関係 ⑦ 営業・販売 ⑧ 生産管理
⑨ 研究管理 ⑩ 情報・システム ⑪ その他()

ウと回答された人にお聞きします。現在のあなたの会社の規模はどれですか。

- ①29人以下 ②30～99人 ③100～499人 ④500～999人 ⑤1000人以上

ご協力ありがとうございました

本アンケート、あるいは、発達科学部に対してのご意見・ご要望がございましたら、自由にお書きください。

付録（２）就職先アンケート

神戸大学発達科学部卒業生についてのアンケート

- 以下の設問では、神戸大学発達科学部の卒業生（大学院：総合人間科学研究科も含む）についてご回答下さい。

問1 本学部の卒業生は、毎年何人くらい貴社を志願していますか(採用、不採用に関わりません)。

1. 1人～5人 2. 6人～10人 3. 10人以上
4. 年によって違う 5. 数年に1人程度 6. その他 ()

問2 本学部の卒業生は、他の大学・学部の卒業生と比べて総じてどのような特徴があるとお感じでしょうか。

	や	ど	や	
	や	ち	や	
あ	あ	ら	あ	あ
て	て	とい	て	て
は	は	もえ	は	は
ま	ま	な	ま	ま
る	る	い	る	る

- | | | | | | | |
|----------------|---|---|---|---|---|------------|
| (1) 意欲的である | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 意欲がない |
| (2) 判断力に優れている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 判断力が乏しい |
| (3) 責任感が強い | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 責任感がない |
| (4) 個性が豊か | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 画一的である |
| (5) 創造力に富んでいる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 創造力が乏しい |
| (6) 専門的な知識が豊富 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 専門的な知識が乏しい |
| (7) 幅広い知識を有する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 知識の幅が狭い |
| (8) 国際的な視野を有する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 国際的な視野が狭い |

問3 この10年間に貴社に採用された本学部の卒業生には、他の大学・学部の卒業生と比べて入社後どのような特徴があるとお感じでしょうか。

	や	ど	や	
	や	ち	や	
あ	あ	ら	あ	あ
て	て	とい	て	て
は	は	もえ	は	は
ま	ま	な	ま	ま
る	る	い	る	る

- | | | | | | | |
|--------------------|---|---|---|---|---|---------------|
| (1) 入社後伸びる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 入社後伸びない |
| (2) 自分で努力する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 自分で努力しない |
| (3) リーダーシップを発揮する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | リーダーシップを発揮しない |
| (4) 創造的な仕事に長じている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 創造的な仕事は不得手である |
| (5) 国際的な仕事に長じている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 国際的な仕事は不得手である |
| (6) ゼネラリストとして成長する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | ゼネラリストにはならない |
| (7) スペシャリストとして成長する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | スペシャリストにはならない |

問4 貴社は、一般に採用に際して、以下の項目をどの程度重視されますか。

	ま あ	ど ち	あ ま	重 視
	重 視 す る	重 視 す る	ら い と え も な い	り 重 し 視 な い
(1) 意欲・熱意	1	2	3	4 5
(2) 性格や人柄	1	2	3	4 5
(3) 考え方や価値観	1	2	3	4 5
(4) 礼儀・マナー	1	2	3	4 5
(5) 健康・体力	1	2	3	4 5
(6) 一般常識・教養	1	2	3	4 5
(7) 風貌・雰囲気	1	2	3	4 5
(8) 部活動	1	2	3	4 5
(9) ゼミ活動	1	2	3	4 5
(10) 専門的知識	1	2	3	4 5
(11) 資格	1	2	3	4 5
(12) 語学力・国際経験	1	2	3	4 5
(13) 大学の成績	1	2	3	4 5
(14) 出身大学	1	2	3	4 5
(15) 出身学部	1	2	3	4 5
(16) 推薦者	1	2	3	4 5

問5 神戸大学発達科学部の卒業生を採用された立場から、本学部の教育の方針・内容について、改善すべき点、よいと思われることなどお気づきの点がありましたら、具体的にご記入ください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

回答いただいた内容につきましては、個別の内容を公表することはありません。

・ お差支えない範囲で、以下の欄にご回答ください

会社名 ()
 回答された方の部署名 ()
 回答された方のご芳名・役職 () ()

おわりに

今回の調査にご回答いただいた卒業生ならびに各企業・団体の皆さんに、お礼を申し上げます。本報告書の自由記述欄を読んで第一に感じたのが、多くの卒業生が今後の発達科学部に期待する「がんばれよ」という気持ちをもっていることである。また、今回の調査を今後の発達科学部の教育・研究のために役立ててほしいとの気持ちもよくわかる。

数年前、学部の将来構想委員会・教育体制検討委員会が、学部教育体制について今後の改善に役立てることを目的として、学部在籍学生を対象にして、26項目から成るアンケート調査を実施した。その結果については、平成14年3月に刊行された報告書「発達科学部の教育体制に関する現状と課題」のなかで分析され、「第5章 発達科学部の教育体制に関する今後の検討課題」で改革に向けての9つの提言がなされている。その後、この提言について学部全体で検討された記憶はないが、今回の学科再編はいくつかの提言に沿ったところもある。

本報告書の「はじめに」のなかにかかれてるように、この資料は、発達科学部10年の歩みに対する第一級の外部評価である。何のために卒業生ならびに各企業・団体の皆さんからの声を聞いたのかをよく考えれば、おのずと本調査結果の生かし方が明らかになるものと思う。

現在、そしてこれからの学生や大学院生に対し、より良い教育・研究体制を整備することは、忙しいなか調査に協力していただいた方々への「発達科学部の発展を期待する気持ち」に応える最良の返礼と考える。

この報告書が、今後の発達科学部の歩む方向を考えるうえでの羅針盤的資料になれば幸甚である。

神戸大学発達科学部卒業生動向調査委員会

発達科学部 教授 船 寄 俊 雄

〃 助教授 太 田 和 宏

〃 教授 岡 田 修 一

神戸大学発達科学部 10年の歩み

—卒業生および就職先アンケートより—

発行日 平成 16 年 7 月 15 日

編集者 神戸大学発達科学部卒業生動向調査委員会

発行者 神戸大学発達科学部

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲 3 丁目 11

電 話 (078) 803-7727

印刷所 交友印刷株式会社

〒650-0047 神戸市中央区港島南町 5 丁目 4 - 5

電 話 (078) 303-0088
